

研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『新編 新しい国語』（東書・2）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○各学年ともに、本編、基礎編、資料編で構成されており、本編は7単元からなる。各単元は系統性を持って配置されており、小学校からの学習を踏まえ、学年の発達段階に応じて学習が深まるようになっている。</p> <p>○各単元では、教材に即して多様な言語活動が設定されており、言語活動をとおして各領域の指導事項をバランスよく身に付け、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにするようになっている。</p> <p>○古典の単元における各学年に折り込みのカラー印刷の写真等の掲載、近代文学、現代文学と読み応えのある作品の設定、資料編における能、狂言など古典芸能の掲載があり、言語事項は系統的に整理されている。</p>
特色	<p><b>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</b></p> <p>○「てびき」や「学習の手順」を示し、学習活動を明確に示すとともに、身に付けたい知識や技能のポイントが「言葉の力」にまとめてある。また「たすけ」として、つまづきへの支援がされている。「学びの扉」と「学びを支える言葉の力」が連携して基礎的・基本的な内容が身に付くよう配慮されている。</p> <p><b>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</b></p> <p>○「読むこと」では、「てびき」に「考えを深める」ための課題を示し、学習者相互の考えを交流させて深めていく言語活動を設定している。詩・短歌・俳句を創作する学習を取り入れるとともに、資料編の「話すこと聞くこと」では、題材例、発想・整理の方法、話し合いの方法等を詳しく紹介している。</p> <p><b>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</b></p> <p>○巻頭に領域別に学習材一覧や「学習の進め方・教科書の使い方」を掲載したり、各教材に目標を示したりして見通しを持てるようにするとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、複数のテーマを示して選択できるようにしたり、「学習の振り返り」を示したりしている。</p> <p><b>＜言語感覚を豊かにするための工夫＞</b></p> <p>○読み物教材には「広がる言葉」、資料編には「言葉を広げよう」を設定し、言葉に関する課題や本編の学習と関連した多くの語句を掲載している。表紙見開きや各単元の扉に詩や短歌、俳句、「四季を味わう言葉」などを掲載している。</p> <p><b>＜国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫＞</b></p> <p>○読書案内等でテーマ別に多くの本を紹介している。様々な古典作品や古典芸能、古典文法の資料などが掲載され、折込みカラー写真も含めて学年に応じて伝統的な古典作品に親しめるよう配慮されている。</p>
資料	<p>○巻頭に「領域別学習材一覧」を掲載し、目標及び言葉の力を示している。「学習の進め方・教科書の使い方」「これから1年間で学ぶこと」を折り込みのカラー印刷で掲載している。</p> <p>○巻末の基礎編には「学びを支える言葉の力」に他の教科の学習や実生活に生かすための工夫が示されており、資料編には言語活動の題材や方法が簡潔にまとめられている。</p>
表記・表現	<p>○「読むこと」の学習材の脚注は、欄が広く設けられており、ページ内の新出漢字の掲出、異体字の併記、記号の色の区別等がなされている。</p> <p>○文章のイメージを大切にイラストや絵を多く配置している。</p> <p>○巻末に「学習用語一覧」を索引として掲載している。</p>
総括	<p>○それぞれの教材で身に付けたい知識・技能のポイントを「言葉の力」で示し、3年間で系統的に積み上げられるようにしており、他教科の学習とのつながりや生活とのつながりを意識して「学びを支える言葉の力」が設定されている。生徒やコトハというキャラクターを適所に登場させ、言語活動を支援している。</p>

# 研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『中学校国語』（学図・11）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかか	<p>○1年から3年まで同じ単元名の5単元で構成され、発達段階を踏まえた副題の設定、教材冒頭の学習目標の提示により学習の方向性が示され、繰り返し段階的に各領域の学習が進められるようになっている。</p> <p>○「読むこと」の学習を段階的に進められるよう工夫するとともに、表現活動につなぐコラム、言葉について深めるコラムを設定することにより、興味関心を高め、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにするための工夫が見られる。</p> <p>○教材「言葉と生活・言葉と文化」「今に伝わる注意したい古語」や巻末資料「語句・語彙の学習」「日本文学の流れ」など、我が国の伝統や文化、産業などを</p>
特色	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <p>○各単元で段階的に学習が進行するよう教材を配置し、習得、活用、探究的な学習が段階を踏んで展開できるよう工夫されている。「読むこと」では「学びの窓」に学習の仕方や学習の振り返りを設けている。コラム「活動を考える」により「読むこと」の学習内容を「話す・聞く」「書く」の活動につなげている。</p> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <p>○「読むこと」の学習を、表現活動につなぎ、発展的に学習が展開できるよう工夫されている。「情報と表現」「表現に向かう読み」では、課題に対して自ら考え表現する力がつくよう多様な言語活動が設定されている。</p> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <p>○つけたい力を「言葉の力」「考える力」「知識や技能」の三分野で明確にし、ねらいに沿って学習を振り返り、自己評価できるよう工夫されている。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」では、ねらいと活動の流れを示すとともに、話題や題材を生徒自身が選べるようにしている。</p> <p><b>〈言語感覚を豊かにするための工夫〉</b></p> <p>○単元の扉などに、音読や暗誦しやすい詩の一節が掲載されている。「漢字を見抜く」や巻末の「○年生の語句・語彙の学習」などに言語感覚を磨くことに資する教材が工夫されている。</p> <p><b>〈国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫〉</b></p> <p>○古典の単元では、導入として学習の方向性を示す解説文や古典の世界をより深く味わうためのコラムが設定されている。古典作品が、作品の世界観が伝わる</p>
資料	<p>○巻頭に「言葉」を題材にした文章を掲載している。</p> <p>○各学年とも巻末に発展的な学習内容として「古典に親しむために一古典文法」「今に伝わる注意したい古語」「口語・文語活用対照表」を掲載している。</p> <p>○図表、写真、挿絵などが大きく見やすく、配色も適切に工夫されている。</p>
表記・表	<p>○脚間、語注、語句、新出漢字、行番号等につけられた記号、文字の色や書体は、学習が進めやすいよう工夫されている。</p> <p>○古典の本文では、傍注により口語訳が付されており、古典と併せて内容が理解しやすいよう工夫されている。</p>
総括	<p>○国際関係、日本の社会や国家、それらの歴史について深く掘り下げた教材を多数掲載している。各単元の教材の段階的な配置や、学習のめあて、学習手順、学習課題、学習成果の評価などにより、学習を進めやすい構成となっている。学習者に応じた学習活動ができるよう、各単元に教材や活動を選んで取り組めるよう選択教材を掲載している。</p>

# 研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『現代の国語』（三省堂・15）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本編と資料編の二部構成となっており、関連する本編の学習中や前後に資料編を活用できるよう工夫されている。本編は、生徒の発達段階等を踏まえた単元構成とし、学習過程を明確にし、系統的に学習できるよう工夫されている。</li> <li>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習では、資料や機器を活用したり、合意を形成しながら課題を解決する学習活動を設定するなど、思考力や判断力を養う教材の工夫が見られる。</li> <li>○古典教材で折り込みのページを設けて資料や写真を充実させたり、資料編で日本の古典芸能を取り上げたりするなど、国語への認識を深め、国語を尊重する態度を育てる工夫が見られる。</li> </ul>
特色 内容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読み方を学ぼう」には、習得すべき知識・技能が図表等でわかりやすく整理されている。「学びの道しるべ」は、目標の確認、基本的な課題、考えを深める課題等で構成されており、段階的に繰り返して技能を習得できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読み方を学ぼう」には、他の教材の学習や日常の読書などの機会に活用できる方法が示されており、思考力、表現力等を高められるよう工夫されている。また、様々な文章を取り上げ、手紙文、創作文、意見文など、相手や目的に応じた表現の学習ができるようになっている。</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材の初めと「学びの道しるべ」の冒頭には学習目標が、最後には振り返る活動が示されており、学習の見通しと振り返りができるよう工夫されている。「学びを広げよう」では、自分で題材を設定したり学習方法を選んだりして取り組む学習が設定されている。</li> </ul> <p><b>〈言語感覚を豊かにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○即興劇や対話劇、句会などの「表現プラザ」の設定、生徒が慣れ親しんでいる歌の歌詞の掲載、「アルバムディクショナリー」の設定等がある。「ことば発見」や「漢字を身につけよう」では、語句・語彙や表現技法についての学習が設定されている。</li> </ul> <p><b>〈国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料編に落語、歌舞伎、能・狂言などの日本の伝統芸能を取り上げている。言語活動や日常の言語生活を高めるための内容や、国語の学習活動に役立つ用語などを、豊富に掲載している。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元に教材と関連する書籍の紹介や巻末に読書案内があり、読書指導につなげられるよう工夫されている。</li> <li>○資料編が「読書の広場」「考える広場」「参考資料」の3部構成で、実践的な方法や知識がまとめられており、活用しやすくなっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○脚注はすっきりして見やすく、明朝・ゴシック・丸ゴシックなど、書体も用途による使い分けが工夫されている。</li> <li>○写真やイラストが大きく、図表や記号等は淡く柔らかい配色となっており、見やすく工夫されている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1、2年は7単元、3年は6単元の「本編」と「資料編」で構成されている。「領域別教材一覧」につけたい力や言語活動が示されており、学習のめあてを把握しやすくしている。「考える広場」には、他教科の学習や自主的な学習でも活用できる様々な方法が紹介されており、学びをより広げたり深めたりすることに活用できるようになっている。</li> </ul>

# 研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『伝え合う言葉 中学国語』（教出・17）
教育基本法、学校教育法の下での中学校学習指導要領の教科の目標とのかか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1・2年8つ、3年7つの単元で構成されている。1年では小学校の振り返りを意識し、3年では、高等学校で取り上げられる作家の作品も掲載して、発達段階に応じて段階的に深化するよう単元が設定されている。</li> <li>○ 「書くこと」「話すこと・聞くこと」では、言語表現や対話・コミュニケーション能力の重要性を題材にした教材を多く配置している。また、メディアと表現について学習できる教材を設定し、伝え合う力を高める工夫がされている。</li> <li>○ 古典教材を「読むこと」と「伝統的な言語文化」に系列化し、日本の代表的な古典作品を取り上げるとともに、視覚資料やコラム教材を設定するなど、日本の伝統文化を継承する態度を育てるよう配慮している。</li> </ul>
特色	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「読むこと」では各教材に「みちしるべ」として「確かめよう」「深めよう」「言葉・表現」の三部構成で学習の進め方や重点を示しており、課題に躓いた生徒へのアドバイスも掲載されている。「漢字の練習問題」がチェック欄とともにまとめて設けられている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「書くこと」では、四コマ漫画、写真、新聞、芸術作品等、視覚に訴える題材を用い、関心を高め、豊かな表現につながるよう配慮している。巻末に設けられた「表現テーマ例集」に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の具体的なテーマ例が示されている。</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教材に「目標と振り返り」が示されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、複数の課題を提示して選択できるようにするとともに、日常に生かせるよう「学びを生かそう」を示している。「言葉の自習室」「学びのチャレンジ」には、発展的な学習に活用できる資料が掲載されている。</li> </ul> <p><b>〈言語感覚を豊かにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「四季のたより」で和歌や俳句等が紹介され、古文や季節の言葉に触れる工夫をしている。「学びのチャレンジ」では、多様な視点から言葉を捉える学習が設定されている。</li> </ul> <p><b>〈国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「本の世界へ」や「読んでみよう」では、様々な著作物が紹介されている。また「読書への招待」では、文豪の作品を取り上げ、名作に触れる機会を設定している。「言葉と仕事」や「ことばの散歩道」など、言語に関する教材を設定している。</li> </ul>
	<p><b>資料</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭に教材ごとの言語活動や学習内容の重点、教科書の使い方等を示している。</li> <li>○ 巻末の「言葉の自習室」には、学習内容を広げる作品や学習資料が掲載されている。巻末折込みには、古典作品や「古典・近代文学史年表」を掲載している。</li> </ul>
	<p><b>表記・表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻末に「理解や表現に役立つ言葉」「学習に必要な用語」の索引がある。</li> <li>○ 挿絵、写真、図表が大きく鮮明であり、それぞれの学年に基調とした色を設けている。脚注の学習活動を促す記号が分かりやすく示されており、本文の行数も数えやすくなっている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「書くこと」「話すこと・聞くこと」では、「学びの重点」として、学習指導要領に示されている学習事項のどれを学習するのが明確に示されている。「読むこと」では、段階的に学習を進め、学習者相互の考えの交流を促す学習課題が設定されている。言語の学習では、会話形式で話題を提供している。</li> </ul>

# 研究調査報告書

教科名 ( 国語 )

項目	『国語』（光村・38）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○各領域の力が身に付くよう7つの単元で系統的に教材が配列されている。1年の冒頭に小学校からの円滑な接続を図る教材が、2・3年の冒頭に前学年の主な学習内容が掲載されており、既習事項を生かした学習の連続性に配慮した構成になっている。</p> <p>○「読むこと」では、教材理解をもとに自分の考えをもたせる設問を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、学習者が相互に助言し合ったり感想を述べ合ったりする交流の場を設定し、習得と活用を繰り返しながら学習を進め、思考力や想像力を養う工夫がされている。</p> <p>○古典の表現を活用する学習の設定や、様々な古典作品・四季にちなんだ言葉の収録により、古典をより身近に感じられるようにしている。また、手紙や新聞、面接、スピーチなど実生活との関連を図り、言語活動を通して社会生活に必要な言葉の力が身に付くようにしている。</p>
特色 内容 資料 表記・表現	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <p>○「読むこと」に設けられた「学習」は、「確かめよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」と段階的な課題で構成されている。「学習の窓」「上達のポイント」には、教材に即した基礎的・基本的な知識・技能、学習者への支援が具体的にまとめられている。</p> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <p>○「読むこと」には、基礎的・基本的内容の確認をした後に読みを深める課題と自分の考えを持つための活用的な言語活動を重視した課題を設定している。「話すこと・聞くこと」「書くこと」には、他教科や日常生活に活用できる表現活動や相手や目的を意識して伝え合う力を育む言語活動を設定している。</p> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <p>○巻頭の「学習の見通しをもとう」に学習のポイントを示し、各教材には学習の「目標」と「学習を振り返る」が設定されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」には、生徒が選択できるようテーマ例や学習の方法を多数示すとともに、次の学習や日常に生かせるよう「次へつなげよう」が示されている。</p> <p><b>〈言語感覚を豊かにするための工夫〉</b></p> <p>○「季節のしおり」や後見返しの「色いろの言葉」には、季節感を表す印象的な言葉や伝統的な色名などが取り上げられている。読むことの教材の中の言葉の遣われ方に着目した課題を示した「言葉を広げる」が掲載されている。</p> <p><b>〈国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫〉</b></p> <p>○読書への興味関心を高め生徒の読書生活を豊かにするため「読書案内」や「読書コラム」、教材と関連のある本の紹介を掲載している。資料編には、古典落語、能・狂言、歌舞伎などの日本の古典芸能や伝統的な言語文化に触れる資料を掲載して</p> <p>○巻頭に教科書の使い方や領域別教材一覧表が掲載されている。</p> <p>○巻末には、インデックスで5つの分野に分類された資料が学年に応じて幅広く掲載されている。折り込みで説明的な文章と文学的な文章の読むための学習用語ををまとめている。</p> <p>○自然の風景や生きものの写真、イラスト等が大きく掲載されている。</p> <p>○脚注に本文と関連ある事柄を、地図や写真等で示すとともに、類・対・意・文などの記号で学習活動を示したり矢印で関連する教材や表現を示したりしている。</p> <p>○巻末に「学習のための用語一覧」を索引として示している。</p>
総括	<p>○各学年7つの単元と巻末の文法・漢字・資料・付録で構成されており、生徒にとって親しみやすく、確かな言葉の力を育てる質の高い教材が多く、道徳教育との関連も図られている。表現に役立つよう多様な語彙を示した「感想を表す言葉」「感情を表す言葉」や情報について学ぶ「情報コラム」などが設定されている。また、身に付けた言葉の力を生かせるよう「生活に生かす」「他教科に生かす」を設定して</p>

## 国語科調査資料2

### ○分量について

		東書	学図	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※教科書に振られたページ数の合計	1年	328	326	320	336	330
	2年	336	334	324	348	328
	3年	336	319	308	348	310
2 単元数	1年	7	5	7	8	7
	2年	7	5	7	8	7
	3年	7	5	6	7	7

### ○領域別教材数等について ※( )内は資料編の中の教材数

		東書	学図	三省堂	教出	光村	
1 教材数 ※扉の部分の詩等を含む	1年	56(28)	58(8)	53(28)	49(35)	56(20)	
	2年	54(30)	56(8)	48(30)	50(33)	57(16)	
	3年	54(31)	56(11)	45(29)	52(35)	51(20)	
2 領域別教材数	① 話すこと・聞くこと	1年	5(4)	4(0)	5(2)	5(5)	6(4)
		2年	5(5)	4(0)	4(2)	5(3)	5(1)
		3年	5(4)	4(0)	5(2)	5(4)	5(3)
	② 書くこと	1年	7(8)	4(0)	6(9)	6(7)	11(7)
		2年	7(5)	5(0)	5(10)	5(6)	9(2)
		3年	5(4)	5(0)	4(9)	5(5)	7(3)
	③ 読むこと	1年	24(5)	31(0)	18(1)	20(9)	21(4)
		2年	24(5)	33(0)	18(2)	19(9)	23(5)
		3年	25(7)	32(1)	18(3)	21(11)	20(6)
④ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1年	17(11)	19(8)	24(11)	16(19)	16(9)	
	2年	15(16)	16(8)	21(11)	18(21)	18(9)	
	3年	15(17)	16(10)	19(11)	17(20)	15(11)	

### ○文種別教材数について ※( )内は資料編の中の教材数

		東書	学図	三省堂	教出	光村
1 物語・小説・随筆 ※古典は除く	1年	5(1)	14(0)	6(1)	7(2)	7(1)
	2年	6(1)	16(0)	3(0)	6(1)	8(1)
	3年	5(1)	13(0)	4(0)	8(3)	5(2)
2 詩・短歌・俳句 ※巻頭詩等を含む	1年	11(0)	9(0)	3(0)	7(1)	8(0)
	2年	11(0)	10(0)	4(0)	7(1)	9(0)
	3年	12(0)	9(0)	4(0)	8(1)	10(0)
3 説明的文章 ※新聞記事等を含む	1年	5(1)	5(0)	4(0)	6(1)	6(1)
	2年	4(1)	5(0)	5(1)	6(1)	6(1)
	3年	6(1)	5(0)	5(2)	5(2)	7(1)
4 古典 ※漢文・和歌・川柳等を含む	1年	4(1)	7(2)	5(3)	3(5)	4(1)
	2年	3(3)	5(2)	4(4)	3(5)	5(2)
	3年	4(3)	8(2)	4(3)	3(4)	9(2)

### ○その他 ※( )内は資料編の中の教材数

		東書	学図	三省堂	教出	光村
学校図書館の活用や読書指導に関する教材数 ※読書案内・読書活動を含む	1年	6(1)	5(0)	1(3)	4(2)	4(0)
	2年	6(1)	6(0)	2(3)	4(2)	6(0)
	3年	6(2)	5(0)	1(3)	6(1)	6(0)

# 研究調査報告書

教科名 ( 書写 )

項目		新しい書写 ( 東京書籍 2 )
教育基本法 学校教育法 の下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年の基礎から積み上げていく形態になっており、3年までに多様な文字を効果的に書くことが出来るよう工夫されている。</li> <li>○基本点画が身につくよう、「書くときのポイント」の中に文字を整えて書くための学習要素が色や点線で示されている。穂先の向きがわかるように所々写真で示している。</li> <li>○学習を生活に広げるための手順が明確で、自分で考えさせたり、調べたり、確かめたりしながら目標にたどり着けるように工夫されている。</li> </ul>
特色	内容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の技能を視覚的に捉えるため2色の淡墨図を用いて穂先の通り道を示したり、始筆をトン・送筆をスー・終筆をピタッと擬音で表現して基本点画をイメージしやすくしている。</li> <li>○穂先の向きを筆の写真で示したり、解説文で表したりしている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒自身で課題を見つけ解決できるよう、目標→練習→振り返り→活用→発展という系統的な学習の進め方になっている。</li> <li>○「書くときのポイント」によって文字を整えて書くための要素を示し、それぞれのポイントを確かめながら書くように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「しょしゃのたね」「しょしゃのつぼ」で関連内容を考えて学習できるようになっており発展学習につながる工夫がなされている。</li> <li>○身近にある文字をカラーで紹介し、書かれた目的や対象や工夫されていることを考える教材を通して日常生活の中の文字に興味・関心を抱かせる工夫がなされている。</li> </ul> <p><b>&lt;国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語で学んだ古典作品・詩歌・手紙・名言・二十四節気の言葉を様々な筆記用具で書くなど、言葉を文字に託して見る者に作り手の心を伝えようとしている。</li> <li>○漢字の成り立ちと移り変わり・ひらがなへの変遷がわかりやすく示されている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆記用具・姿勢・持ち方・扱い方が巻頭にわかりやすく掲載されているとともに、用紙・用具の製作過程がカラーで紹介されている。</li> <li>○常用漢字表と人名用漢字表が五十音順に楷書体と行書体で示され、作品作りに役立つ工夫がなされている。</li> <li>○ポスター・手紙・新聞・ノートなど日常生活で役立つ書写の実例が多数紹介されている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「目標」「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「参考ページ」という学習過程の説明が共通のマークによって示されている。</li> <li>○筆記用具を示す記号も使われ、効果的に表現するための工夫がなされている。</li> </ul>
総括	<p>AB判。毛筆では「書くときのポイント」が示され確かめながら書けるようになってきている。私たちの身の回りにある文字に興味・関心を高められるように、文字に関する様々な情報が豊富な写真・資料によって効果的に示されている。また、日常生活の中で生かせる書写の活動が出来るような教材が非常に多く、大人になってからも役立つ発展的な内容になっている。</p>	

# 研究調査報告書

教科名（書写）

項目	中学校 書 写（学校図書・11）
教育基本法 学校教育法 下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり	<p>○文字のバランスや配置の理解のために、紙面を点線で区切ったり、運筆の理解のために筆順を赤で記し矢印で筆の動きを示したりする工夫がなされている。</p> <p>○硬筆では、1マスを4つの部屋に分け、始筆や送筆、終筆を意識させている。</p> <p>○我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるように「資料」や「硬筆に生かそう」で、日本の古典や文学作品が手本として取り扱われており、生徒の興味や関心を高める工夫がされている。</p>
特 色	<p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</p> <p>○毛筆の基本の筆使いが墨の濃淡を使って示され、手本に点線・矢印・筆順・中心を赤字で書き加えて、分かりやすく解説している。</p> <p>○点画の基礎・基本を身に付けるため、うつし書きや教科書に直接書き込む欄を多く設けている。硬筆では字形や漢字と仮名の調和など、段階的に学習できるようになっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <p>○各学年ごとに段階的に学習できるよう構成されており、課題を意識しながら取り組めるようになっている。</p> <p>○日常生活や学習活動で生かせるように、メモの取り方や手紙・原稿用紙の書き方などを取り上げ、様々な筆記用具で、表現効果を考えて書かせる教材を設定している。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <p>○主体的に取り組めるようにキャラクターの吹き出しの言葉で学習のヒントを与えたり、自分の課題に合わせて練習できるよう練習用紙の工夫例を挙げたりしている。</p> <p>○発展として「臨書を体験しよう」と「篆刻を体験しよう」のコーナーが設けられ、芸術書道へとつなげられるようになっている。</p> <p>&lt;国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫&gt;</p> <p>○我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるように、「竹取物語」や「枕草子」などの古典や、俳句・短歌・ことわざなどについて取り上げている。</p> <p>○「書写の窓」で、さまざまな字体や平仮名と片仮名の成り立ちについても説明している。</p>
資 料	<p>○巻末の漢字一覧表が行書で紹介され、日常にも応用できるように配慮されている。</p> <p>○読みやすくするために書き文字とは違う表し方をしている活字について説明している。</p> <p>○裏表紙に、保護者に向けた「この教科書でめざすこと」を載せることで家庭との連携を図っている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○学習しやすいようにキャラクターが学習のポイントを示し、マーク・吹き出しを効果的にレイアウトすることで、見やすくなる工夫をしている。</p> <p>○毛筆教材では、2文字以上の手本は原寸大とし、大きさや位置を視覚的に捉えることができるようになっている。</p>
総 括	<p>毛筆の後に硬筆が設定されている。硬筆は書き込みができるようになっていて、行書の学習では、毛筆での学習が硬筆の学習に発展できるよう工夫されている。楷書の基本の点画を分かりやすく掲載している。原寸大の手本が見やすく、キャラクターの吹き出しによって、ポイントをしばって主体的に学習ができるようになっている。</p>



# 研究調査報告書

教科名（書写）

項目	現代の書写（三省堂・15）	
教育基本法 学校教育法 下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な点画の書き方が身に付くように、朱墨と薄墨で穂先の動きが分かるように示し、穂先の向きが分かるように連続写真で示している。</li> <li>○書写への関心を高めるように、書き方のポイントを多く示している。</li> <li>○国語への関心を高め、日常生活に生かせるように、「生活に生かそう」のコーナーを学年ごとに設定し「書き文字」を多く取り上げている。また、年賀状や書き初めの起源を紹介することで、暮らしの中の文化としての「書くこと」に関心を持たせるように工夫されている。</li> </ul>	
特色	<p><b>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆と硬筆、行書と楷書を並べて掲載しているため、関連性や整合性が分かりやすい。</li> <li>○学習したことを書いて確かめたり、振り返ったりできるように、硬筆で教科書に書き込める欄を設けている。</li> </ul> <p><b>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本点画の学習では、書き方のポイントが大きな文字で書かれており、課題を意識しながら取り組ませる工夫がなされている。</li> <li>○思考力を高めるために、「考えよう」「話し合おう」のコーナーが毎教材、設定されており、課題を意識しながら取り組めるようになっている。</li> </ul> <p><b>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「自分の文字や書き方をよりよくするために」で、方法が具体的に示されている。</li> <li>○「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」「生活に生かそう」と、学習の流れが明確になっている。</li> </ul> <p><b>＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平仮名の楷書は「いろは歌」、行書は五十音図で示されており、それぞれ漢字が平仮名に変化していく過程が添えられているため、理解しやすくなっている。</li> <li>○「生活に生かそう」「効果的に書こう」の単元では、手紙や卒業記念冊子などの取組を題材に、生活と書写との関連を図っている。</li> </ul>	
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆や紙・硯などの製作過程を紹介し、歴史的な知識を深めるよう工夫されている。</li> <li>○巻末の漢字一覧表は、小学校で学習した漢字と中学校で学習した漢字が、楷書と行書の両方で示されている。</li> <li>○日常生活に密着した「書き文字」が多く掲載されている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きのページの左側にお手本、右側に書くときのポイントと硬筆の書き込み欄が見やすく設定されている。</li> <li>○学習のヒントをキャラクターが吹き出しで示していて、課題が解決しやすくなっている。</li> <li>○用具や使用時の姿勢・持ち方などが具体的に写真や図で示されている。</li> </ul>
総括	<p>「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」という学習過程を明確に示している。「生活に生かそう」では、日常生活でも活用できるように、手紙の書き方や掲示物の書き方など、教材を多く提示している。大きな文字やキャラクターで分かりやすく主体的に楽しく学べるよう工夫されている。</p>	

# 研究調査報告書

教科名 ( 書写 )

項 目		中学書写 (教育出版 17)
教育基本法 学校教育法 下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり		<p>○各学年ごとに学習目標を定め、様々な筆記用具を使って試し書きやまとめ書きをしながら課題解決にむかい、書く力を養うという学習の進め方になっている。</p> <p>○基本点画が身につくように淡墨と朱墨の連続写真を使って説明している。筆圧は番号とその大きさを示している。穂先の向きは青の穂先マークで示している。</p> <p>○文字を書くことの目的や相手、表現効果を明確にできる筆記用具の選び方なども示しながら、身の回りにある文字に関心を持たせる工夫がなされている。</p>
特 色	内 容	<p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</p> <p>○毛筆の技能が視覚的に捉えられるよう、2色の淡墨図を用いて穂先の通道を示している。</p> <p>○筆圧の加え方を数字で表し、筆脈が分かるように点線で示している。</p> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</p> <p>○生徒自身で課題を見つけ解決できるよう、試し書き→考えよう→まとめ書き→振り返ろう、という系統的な学習の進め方になっている。</p> <p>○様々な筆記用具を使って、表現効果を考えながら書かせる教材を扱っている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <p>○発展学習を取り入れ、古典作品や有名作家の直筆原稿、日常生活に活かせる掲示物などをカラーで紹介し、興味・関心を抱かせる工夫がなされている。</p> <p>&lt;国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫&gt;</p> <p>○書写学習の構図をわかりやすく木の図で示すことで、国語で学んだ文章や語句が効果的な文字によって人と人をつないでいることを明らかにしている。</p> <p>○古典・詩歌・手紙・掲示物などを扱うことで、国語で学んだ様々な言葉を文字に託して見る者に作り手の心を伝えようとしている。</p>
	資 料	<p>○小学校で学習した漢字の行書一覧表が、共通する偏や旁ごとに配列され示されているので実用性が高くなっている。</p> <p>○有名作家の直筆作品や古典作品・日常生活に活かせる掲示物・芸術としての書道作品などがカラーでわかりやすく紹介されている。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○「振り返ろう」という自己評価欄が設けられ目標達成から日常生活へと活かせるように工夫されている。</p> <p>○穂先マーク、朱墨、淡墨を使い分け、穂先の通道がわかるように示している。</p> <p>○筆記用具を示す記号を使い、文字を効果的に表現できるよう工夫されている。</p>
総 括	<p>私たちの身の回りにある文字に興味・関心を高められるように、文字に関する様々な情報が豊富な写真・資料によって効果的に示されている。また、日常生活の中で活かせる書写の活動が出来るような教材も多く、芸術書道への発展的な学習につなげられるようになっている。</p>	

# 研究調査報告書

教科名（書写）

項目	書写（光村図書・38）	
教育基本法 学校教育法 下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり	<p>○基本的な点画の書き方は、筆使いを理解するために「朱墨」と「薄墨」を使い分け説明している。穂先の向きが分かるように、穂先のマークを図で示している。</p> <p>○国語を尊重する態度を育てるために、国語で学習した古典作品や俳句をコラムや例文で用いるなど、国語教材と関連した学習内容を盛り込んでいる。</p> <p>○「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」という学習の流れを示したり、文字の歴史や筆記具などにも触れたりして、主体的に学びを深められるようにしている。</p>	
特色	<p>内容</p> <p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</p> <p>○毛筆と硬筆、行書と楷書を並べて掲載しているため、関連性や整合性が分かりやすい。</p> <p>○毛筆を学習した後、同じ文字を硬筆で書くようになっており、技能の習得が確実なものになっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <p>○思考力・判断力を高めるために、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」という流れで、主体的に学習を進められるようになっている。</p> <p>○発展教材として書体まで紹介し、文字を効果的に使うよう工夫されている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <p>○楷書、行書共に豊富ななぞり書きを中心に、書き込み部分を多く設定し、見開きのページで硬筆・毛筆の練習ができるため、見通しを持った学習ができるようになっている。</p> <p>&lt;国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫&gt;</p> <p>○文字の歴史について篆書から楷書までを、平仮名・片仮名と併せて取り上げ、実物大の手本で作品を作り上げる意欲をわかせるようにしている。</p> <p>○俳句・短歌（和歌）・「平家物語」・「枕草子」・「雪国」等、幅広い作品を扱い、見る者に作り手の心を伝えようとしている。</p>	
	資料	<p>○常用漢字を五十音順で楷書と行書を並べて提示しているため、書き方が分かりやすく、なっており、部首別行書一覧によって実用性が高くなっている。</p> <p>○手紙・原稿用紙・ポスター・レポート・新聞・黒板など、生活に密着した「書き文字」が多く写真入りで説明されているので、自由に選択できるようになっている。</p>
	表記・表現	<p>○穂先マークを付け、朱墨と薄墨を使い分けることで穂先の向き、筆圧、筆脈、穂先の通り道が分かりやすくなっている。</p> <p>○字や行の中心を、上下にある小さな赤い三角形で示してある。</p> <p>○各教材ごとに、「学習を振り返る」という自己評価欄が設けられている。</p>
総括	<p>教材ごとに目標が示され、学習活動を通して自己評価につながる学習の流れが分かるようになっている。楷書と行書の使い分けの単元では、場面に適した書き方を考えさせることで、より実生活に生かせるようにしてある。書写辞典として行書と楷書・部分別行書一覧が設けられているので、行書を実用的に伝えるようになっている。</p>	

項 目		新しい数学(東書・2)
教育基本法、 学校教育法の下、 中学校学習指導要領の 教科の目標との 関わり		<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材が段階的に示されており、学習内容が定着するように工夫されている。また、具体的な事象と結びつけて考察することで、基礎的・基本的な技能を習得するよう構成されている。</li> <li>○題材が身近な事象に関連して、数量や図象などを数理的に考察するような題材が取り上げられ、思考力、表現力、判断力などの育成が図られている。</li> <li>○各章の導入課題では、捜査活動を取り入れ、その活動が本文へとつながるように構成されている。その導入から解決までの流れの中で、数学的な活動の良さや楽しさを実感できるようにしている。</li> </ul>
特  色	内 容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「例」→例にならって解く「たしかめ」→「問」とスモールステップな構成になっている。また、「ちょっと確認」(1年p74)や「まちがい例」(1年p91)、「ノート例」(p89)で事前にミス回避できるヒントが示されている。また、随所に算数への振り返りやちょっと確認、補充の問題など個々の技能に合わせて学習ができ、基礎的・基本的な内容の学習が進められるようになっている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「数学マイノート」(2年p30など)、「レポートにまとめよう」(2年p89など)では、模範的なノート例やレポート例が示されており、思考力や表現力などの育成が図られるよう構成されている。また、多様に考えたり、友達の考えを読み取る場面では「生徒キャラクター」を利用して、解決の糸口を示すように工夫されている。(各学年随所)</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○側注に学習内容を補足するような内容が示され、自主学习がしやすく、復習にも活用しやすくなっている。巻末の「補充の問題」では、問とリンクしており、繰り返し練習で問に戻ったり、難易度の高い問題を解いたり個に応じた取り組みをする。「学びのページ」では、多様な考えが出しやすい問題で、自ら進んで考え仲間と練り上げられる課題が用意されている。</li> </ul> <p><b>〈数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章の導入として部活動や遊園地など身近によくある物事を扱い、予想を立てて考察できる構成になっている。また、ほとんどの章に「利用」の節があり、身近な課題に数学を活用し解決に向けて考え、判断し表現できるようになっている。巻末には「学びをいかす」など、生活の中から数学的な課題を見つけ、数学を利用して身のまわりの問題を解決する活用の問題がある。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題に対して具体的な場面や日常生活との関連に気付くようなイラストや写真が用いられている。また、巻末付録では、切り取って操作活動するための資料がついている。</li> <li>○統計資料などは、色調の工夫などがあり、また、複数の表の場合には、相互に比較できるように配置されている。</li> </ul>
	表 記・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「例」と「問」のあいだに「たしかめ」があり、公式や定理は緑の枠で囲まれている。また、例題の解答は途中の式も丁寧にまとめられている。</li> <li>○新しい用語・記号は太字で示されている。</li> </ul>
総 括		<ul style="list-style-type: none"> <li>○章の導入での「疑問」や「生徒キャラクター」のやりとりなどで、内容を補助するとともに、数学的な活動を促すように示されている。</li> <li>○本文では、思考を補助する課題や吹き出しが示され、巻末にある「問題編」「課題編」では、習得・習熟の段階に応じた指導ができるように構成されている。</li> <li>○全体的に淡い色を使用しており、目に優しい色使いである。</li> </ul>

項 目		数学の世界(大日本・4)
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		<ul style="list-style-type: none"> <li>○章の扉には簡潔に章の学習内容が示されており、数学的な活動が取り入れられ、楽しみながら学習するように工夫されている。</li> <li>○各章では、既習事項との関連を踏まえた課題が設けられてある。さらに、利用に関連した節が設けられており、課題の中で、既習事項を活用する力の育成が図られるように構成されている。</li> <li>○側注を利用して、これまでの学びを振り返るとともに、繰り返し練習する場面を設け、基礎的・基本的な知識や技能を習得するような構成で、学習に進んで取り組めるようになっている。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節は、学習する内容が見開き2ページでまとめられており、学習が進められやすい。また、課題→ねらい→課題解決→練習問題という流れになっているとともに、側注に理解度に応じた問題「プラスワン」(各学年とも随所)があり、学習がステップアップできるようになっている。節末の「練習」には本文中の参照ページがあり振り返りがしやすい。各小単元のタイトルの下に学習のねらいが記載されており、生徒が学習の見通しが立てられるようになっている。(各小単元始め)</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「数学の世界へようこそ」として学習の進め方のページを設け、数学的活動のステップを示すことで学習の流れがわかる。(各学年p7) 学習の中で、式や表、グラフなどを利用して調べる、説明する場面がある。学び合いの中で、仲間に考えを伝える、聞く活動においても、図や式などを使って説明でき、表現力を養う場面が設定されている。(1年p151など) ハートマークの問題や章の問題にあるりんごの課題などが、数学的な言語力を高めるための課題がある。</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年とも巻頭の「はじめに」で、数学を学習すること、考える力や伝え合う力の重要性が示されている。各章に「利用」の節が設けられ、学習内容を具体的な場面で使えるように工夫されている。巻末には、小学校のまとめ、当該学年のまとめの問題など、主体的に学べるよう工夫されている。教科書の使い方(各学年p6)があり、自分で取り組むページもある。</li> </ul> <p><b>〈数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「プラス・ワン」、「いろいろな問題」、「まとめの問題」があり、教科書を活用して主体的に学習に取り組めるようになっている。巻末の「Mathful」では、各章ごとに身のまわりにひそむ数学について示し、数学の楽しさ等を味わわせるよう工夫されている。各章の「いろいろな問題」やその他「挑戦しよう」により、学んだことを活かした学習ができるようになっている。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活で用いられ、学習内容に関連する具体的な場面や操作などに気づかせるような挿絵や写真などが用いられている。また、巻末には、切り取って操作活動をするための資料が用意されている。</li> <li>○統計資料には、写真やイラストがついており、コンピュータを使って資料の整理の仕方を学ぶページがある。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの学習ポイントがオレンジの枠で囲まれている。</li> <li>○1学年に比べ2、3学年で文字のポイントが小さくなっている。また、新しい用語・記号は太字で示されている。</li> </ul>
総 括		<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き構成で、数学的活動を通して学べる学習活動形式でわかりやすい。</li> <li>○書き込みの課題が随所で用意されおり、一人一人が主体的に学べるようになっている。練習問題数も多く、繰り返し学習しやすく、自主学習がしやすく構成されている。</li> <li>○保護者へ向けて、家庭を巻き込んで数学の重要性や学習の大切さを呼びかけている。</li> </ul>

項 目		中学校数学(学図・11)
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識や技能の定着が図れるように工夫された課題、観察や操作、実験などの操作活動を取り入れた課題が設定されている。</li> <li>○日常の事象をもとにした題材や話題、社会とつながりのある事象などが多く取り上げられ、また、根拠となる理由を説明する課題など、思考力や表現力などの育成が図られるようになっている。</li> <li>○2色のカラーで各章が示されており、章の最終ページに数学的活動の課題ではカラーの帯で囲まれており、わかりやすい。数学的な考え方、レポートの作成、発表のしかたが身につくようにしてある。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○解法例では解答だけでなく、概念や原理などが理解できるように、重要な考え方が明記されている。(1年p104など) また、数、量、図形の章の扉や本文中に「ふりかえり」があり、復習や学び直しができるような構成である。各節末の「確かめよう」が設けられてあり、本文中の参照ページが示され、振り返りができる。また、章末の「まとめの問題」では基礎的・基本的な力がつけられるよう工夫してある。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文中、生徒のキャラクターのコメントという形で思考力等が高められるように工夫されている。「考えよう」「見つけよう」などでは、思考力、表現力等の育成が図られるようになっている。数学的な考え方(類推的、帰納的、演繹的)がどのような考え方なのかを各学年巻頭で示し、本文中にどの考え方であるのか注釈してある。(全学年p8, 1年p26など)</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章の扉では、観察や操作等の活動があり主体的に学習できるような構成である。本文中の「問」の側注の「やってみよう」と「計算力を高めよう」がリンクされている。さらに「おしえて!」の中で生徒が主体的に考え、「クローズアップ」で解決するようになっている。また、既習事項をもとに、数や図形の新しい性質を見付け出す場面を設定してある。</li> </ul> <p><b>〈数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「章のまとめ問題」では、基本・応用・活用と分けてある。また、最後に「深めよう」のページがあり、主体的に学習に取り組み、数学を活用して考えたり、判断する力が養える。また、「自由研究のページ」があり、日常生活に関連した課題により、日常生活における数学の役割に気づき、学んだ内容を活用し、深める学習ができるよう構成されている。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実際の建物や実物の写真、地図や絵などが多く使われ、興味・関心を持ち学習に取り組めるようになっている。</li> <li>○巻末に操作用の付録がついており、体験活動を通して実感を伴った学習ができるように工夫されている。随所に将来の職業に関連した問題が織り込まれている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文中を含め、ひかえめな色づかいで重要な箇所等も見やすくなっている。本文では書き出しなど縦の列がそろっており大変みやすい。</li> <li>○キャラクターが様々な場面で適切な助言をし、学習が進めやすい。</li> </ul>
総 括		<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文中、巻末に多くの数学的な話題(身の回りの事象や社会との関連、数学に関する歴史的な話題など)が扱われている。</li> <li>○数学的な活動や数学的な討論がしやすく工夫されている。また、書き込ませる、作図をしながら性質を考えるなど、生徒が自ら考えるようになっている。</li> <li>○多様な考え方の重視、条件がえなど数学的な発展に配慮された内容となっている。</li> </ul>

項 目		中学数学(教出・17)
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		<p>○たしかめや問題など段階的に学習を進めていながら、基礎・基本を定着できるように構成されている。また、既習事項の確認や基礎的・基本的な内容を確認する「復習のページ」や「学習のまとめ」が設定されている。</p> <p>○章の導入や章末などで身近な事象に関する題材を取り入れ、根拠となる理由を説明するようにして、思考力や表現力などの育成を図るような題材が扱われている。</p> <p>○観察、操作や実験などが取り入れられ、数学的な見方や考え方のよさに気づくように構成されている。また、学習内容のまとめごとに、それらを利用した学習に取り組むような課題が設定されている。</p>
特 色	内 容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <p>○単元のはじめに学習のねらいが示されている。また、例題のあとに「たしかめ」があり、既習事項の振り返り(もどって確認)があり、基礎的・基本的内容が確認できる。(1年p114など) また、節末の「基本のたしかめ」、巻末の「たしかめの補充問題」で振り返り学習ができるように工夫されている。更に章末には「学習のまとめ」も配置され、学んだ内容の確認ができるようになっている。</p> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <p>○複数の考えを引き出せる課題が示してあり、互いによりよい解決方法を言い合う、論理的に説明できる課題がある。(1年p82など) また、新しい学習の際は、「Q」や「みんなで数学」で表現力などを養おうとしている。本文中の側注のキャラクターや「噴き出し」による解法ヒントがあり、間違いやすい箇所では間違いを説明させるなど工夫されている。</p> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <p>○生徒が課題に取り組みながら、数や図形の性質を見出したり、日常生活や社会で数学を利用したり、筋道を立てて説明し合える活動がある。(1年p181など) また、章の導入では章で学ぶ内容が簡潔に書かれてあり、「Let's Try」は具体例をもとにした導入である。生徒キャラクターによるヒントで進んで学習でき、巻末に「実力アップ問題」も設けてある。</p> <p><b>〈数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫〉</b></p> <p>○「みんなで数学」や「数学の広場」が単元ごとにあり、巻末には「チャレンジコーナー」や「ジャンプ」では、学習の系統性を踏まえ、その学年以降に学習する内容が取り上げられ、数学の楽しさを味わったり、活用力を高められるようになっている。(1年p160など) また、他教科と数学との関連が示してあり、意識をしながら活用できる。(1年p11など)</p>
	資 料	<p>○本文はさし絵や、イラストが用いられ、具体的な場面を想起させる場合や日常生活との関連を示す際には写真が用いられている。巻末の付録には切り取って立体を作成する資料が用意されている。</p> <p>○図、表、グラフなどの資料は書き込みができるように工夫されている。また、統計資料は、表の項目には配色され見やすくなっている。</p>
	表記・表現	<p>○単元のはじめに目標が示されていて、習得すべき内容が明記されている。</p> <p>○数学用語を説明している箇所は黄色で、重要事項や性質、定理は緑色で囲まれている。また語句や記号、公式については太字で示されている。</p>
総 括		<p>○練習問題を精選し、発展は章末に、深化・補充は巻末資料として分けられ、個に応じて学習を進めることができる。巻頭に「学習を進めるにあたって」があり、意識してほしいこと、数学の授業で心がけること、ノートの取り方の一例が紹介されている。</p> <p>○小・中学校の学習のつながりが円滑になるように「小学算数のまとめ」が巻末にある。</p> <p>○索引などで数式や数学用語の英訳があり、文字で表すことのよさや理由を学べる。</p>

項 目		未来へひろがる数学(啓林館・61)
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		<ul style="list-style-type: none"> <li>○多種多様な題材が取り上げられ幅広い知識と教養を身につけられるよう構成されている。生徒が主体的に真理を求める態度が養えるようなコーナーを設けてある。</li> <li>○数学的な概念・原理・法則を、具体的な例を通してわかるように工夫しており、「～の意味(意義、必要性)を理解すること」も充実し、その上で身につけるように構成されている。</li> <li>○身につけた数学的な知識を総合的に活用する場面を設け、活用しようとする態度の育成をはかる箇所がある。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の確実な定着をはかるため、スモールステップな展開、解説になっている。操作的活動も多く取りあげ、展開が工夫されている。各章末の「基本のたしかめ」には、本文中の参照ページがあり、本文中や章末の問題、巻末の「力をつけよう」など基礎的・基本的な力がつけられる構成である。また、新しい学習に入るときに、「ふりかえり」で関連する既習内容があり、振り返りながら学習が進められる。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「章末問題」の最後にじっくり考えて解決する「千思万考」の問題があり、思考力が育める。(1年p79など) また、問題解決や問題設定に必要な思考、判断のきっかけとして、数学的な見方・考え方に「同じように考える」「逆向きにみる」「すでに学んだ形にする」などのキーワードがあり自らそのような考え方ができるようになっている。(1年p33など)</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○節ごとに「学習のとびら」があり、日常生活の事象と関連付けられており、興味・関心を持って学習できるように設定されている。(1年p104, 105, 2年p25, 3年p106など) また、「Math Nav iブック」では、その章の事前・事後に学習ができるような構成で、主体的な学習を促している。</li> </ul> <p><b>〈数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活や社会との関連を重視し、生活の中から数学的な課題を見つけたり、数学を利用して身のまわりの問題を解決したりできる「身のまわりへひろげよう」(1年p.130-131, 2年p.143, 3年p.148-149など)がある。また、巻末にある「数学広場」で興味・関心に応じて取り組める課題が用意されている。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数学が使われている場面で、学習内容と関連させて図や写真が用いられている。また、説明を補うための図や表を効果的に使い、学習の理解を補助している。</li> <li>○本編(必修学習内容)と別冊(深化・補充・発展)に分け、互いにリンクして学習が進められるようになっている。</li> </ul>
	表 記・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章表現は、簡潔明瞭で読みやすい。用語・記号は、ことがらや関係などが明確・簡潔に表わされている。</li> <li>○色使いもしつこくなく落ち着いた色調である。</li> </ul>
総 括		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容の系統性・関連性を重視し、素材や課題が以前、現在、今後の学習内容のつながりを踏まえて設定されている。</li> <li>○小学校や高校との関連性も側注に示されている。</li> <li>○本編における練習課題を精選し、進化・補充・発展は、巻末や別冊の資料があり、授業で扱う内容、家庭学習で扱えばよい内容と分けてある。</li> </ul>



項 目		中学校数学(数研・104)
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な知識や技能の定着を図るようふんだんに問題が用意され、その問題に関連する既習事項が示されており、振り返りや繰り返し学習を通して、基礎的・基本的な知識や技能が定着するように構成されている。</li> <li>○日常生活に関連した題材が取り上げられ、表や図を用いる学習活動などにより、思考力や表現力などの育成が図られるように構成されている。</li> <li>○各章の導入で興味・関心を高められるよう課題が取り入れられており、進んで取り組むように構成されている。また各章の中に説明文や問いなどで数学的活動を促す場面が設定されている。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「出発前のクイックチャージ」で、該当学年までに学習した基本事項がまとめて示されている。本文中の「問」、節末の「確かめよう」、章末の「基本の問題」などで繰り返し学習ができるように構成されている。また、各小単元のタイトルの下に「ここで学ぶこと」が記載されており、生徒が学習の見通しが立てるようになっている。(各小単元始め) また、数式で表現する、数式を読み取ったりする、数学的に表現する場面が多くある。(1年p78など)</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Q」「伝えよう」「見つけよう」「活用しよう」など、数学的活動を促す場面が多くある。巻末の「数学探検」では、身の回りにひそむ数学の歴史的な話題も取り上げ、数学の楽しさや奥深さを感じながら、思考力等が育成できる。章の問題A、Bでは標準的な問題を、巻末チャレンジの編の「深めよう!」で応用力などを高める、「考えよう」では興味を深める問題がある。</li> </ul> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入では、具体例による説明と既習事項との関連が示され、例題では模範解答や例の表題で主体的な活動を促している。既習事項を利用して考える、身近な事象から数学を見出す話題が多く、興味・関心を高められる。章のとびらでは学習内容が簡潔で具体例をもとにした導入である。生徒キャラクターや他のキャラクターによるコメントが有効である。</li> </ul> <p><b>〈数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年とも学習事項に関連した話題を扱った「数学探検」では、数学の有用性を実感できるようになっており、数学を活用して解こうと思うような構成になっている。(1年p225など) また、巻末にある「知識を活用しよう」では、該当学年の内容を総合的に使って取り組める課題になっている。(1年p267など)</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文はさし絵や、イラストが用いられ、具体的な場面を想起させる場合や日常生活との関連を示す際には写真が用いられている。巻末付録には切り取って図形を作成する資料が用意されている。</li> <li>○図、表、グラフなどの資料はできるだけ大きくしてあり、書き込みがしやすいよう工夫されている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の最初に目標が示されていて、習得すべき内容が明記されている。また、各項目はページの最初から始まっている。</li> <li>○重要事項や性質、定理は黄色や赤色で囲まれている。語句や記号、公式は太字である。</li> </ul>
総 括		<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題量が多く、基礎・基本の定着に重点を置きつつも、応用、発展問題も多く採用され、生徒が主体的に学習に取り組めるようになっている。</li> <li>○ノートをとる際の注意点のページがあり、本文中にも注意したいことがらにNOTEマークがあり、学習しやすい。</li> <li>○活字は大きく見やすく、カラーユニバーサルデザインを採用してある。</li> </ul>

項 目		中学数学(日文・116)
教育基本法、 学校教育法の 下、中学校学 習指導要領の 教科の目標と の関わり		<p>○数学的な知識や技能や数学的な見方や考え方を確実に習得し、数学的な真理を求める態度を養い、広い知識と教養が身につくような構成されている。</p> <p>○個に応じ学力を伸ばし、生活や社会の関わりを知り、数学を利用しようとする態度を身につける構成になっている。</p> <p>○協同して取り組む活動の場面で、自分の考えを伝える、他者の考えを認める、他者を敬う態度を身につけられるようになっている。</p>
特 色	内 容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</b></p> <p>○各章の扉には、これから学ぶきっかけがあり書き込みができるようになっている。見開き2ページ1時間として学習内容がまとめられており、学習のねらいが★印で示されている。節末の「基本の問題」など、本文の参照ページが示されており、振り返り学習ができる。学習の中で生徒が間違いやすい箇所、つまづきやすい箇所の説明が丁寧で、新しい用語の使い方の具体例がある。(1年p98、2年p100、3年p26など)</p> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <p>○「考える・調べる・予想する・説明する」と話し合っ解決する「話し合おう」のページが設けてある。(1年p185など) 結果だけでなく、思考の過程を表現したり、友達の発言も考察できるようなノートの取り方のアドバイスのページがある。(全学年ともp8) 説明の仕方の具体例がノートの形で示されている。(1年p225、2年p180、3年p119)</p> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <p>○数量の章に「利用」の節が設けてあり、学習内容を具体的な場面で活かせる。本文中の側注の「チャレンジ」問題で、進んで学べるよう工夫されている。各章の「○○を学ぶ前に」や巻末などで、予習・復習の習慣づけが図られるようになっている。数学的な活動を楽しんだり、数学を学習する意義や必要性、有用性が実感できるような構成である。</p> <p><b>〈数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫〉</b></p> <p>○巻末の「数学研究室」で数学的な見方や考え方を広げる問題や「力をのばそう」のB問題で活用する力をつける問題が示されており、数学的な力をのばそうと工夫されている。(各学年巻末) 数学にまつわる話、教科を越えて取り組める課題などが「数学研究室」の中で具体的に示してある。(各学年巻末)</p>
	資 料	<p>○数学を他教科や総合的な学習と関連づけた内容が意図的に取り入れられている。</p> <p>○各章の扉では操作活動や予想を立て学び合うことを通して、良さや楽しさが実感でき、興味・関心を持って取り組める構成になっている。基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るよう問題が用意されている。</p>
	表 記・ 表 現	<p>○説明の文章が簡単でわかりやすい表現になっている。また、図や式を併記してあり、理解しやすい。</p> <p>○色使いもしつこくなく全体的に落ち着いた色調である。</p>
総 括		<p>○基礎的・基本的な学習内容をより深く理解し定着できるように工夫されており、数学的活動ができるよう多くの素材を使っている。</p> <p>○生徒の主体性を引き出す、学習内容を活用する、思考力や表現力などをつけるように工夫しながら、個に応じた学習に取り組めるようになっている。</p>

項 目		新編 新しい社会 地理（東書・2）
教育基本法、学校教育法の下の中 学校学習指導要領の 教科の目標とのか かわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界・日本の諸地域の学習で、各地域の最初のページで、その地域の特色をあらわす写真を掲載し、各地域学習の見通しをもたせることができる。</li> <li>・見開き1時間の紙面を「興味・関心を引き出す『導入資料』→1時間の学習を見通す『学習課題』→丁寧にわかりやすい『本文』→1時間の学習を振り返る『確認』」の流れで構造化し、学習内容を確実に定着できるよう工夫している。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地理スキルアップ」「調査の達人」で、各資料の読み取り方や調査の仕方、まとめ方等の基礎的・基本的な技能を身につけさせている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の振り返りとして、見開きページ右下の「確認」で、要約、説明など言語活動を繰り返し取り組むことができる。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を象徴する資料が、見開き最初に大きく掲載され、本時の学習への興味関心を引き出す工夫をしている。</li> </ul> <p><b>&lt;地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P22「世界のさまざまな住居」では、写真を比べて違いや共通点を探す学習を通して気候と結びつける見方を考えさせている。</li> <li>・「世界の諸地域」「日本の諸地域」では始めにそれぞれの地域を概観し、「なぜ～」という学習テーマを設定し、追究させている。そして最後の「学習をふり返ろう」で学習テーマについてのまとめが提示され、理解しやすい構成になっている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、各地域の見出しに例えばP44「アジア州―急速に進む成長と変化」というような地域的特色を追究するテーマをあげ、導入として大きな写真資料、地図から自然環境（地形・気候）を取り上げている。次に生活、歴史や文化、産業、結びつき等について学習課題を設定して地域的特色をあげている。最後に地域の課題をあげ、学習を振り返りまとめをし、地域的特色を理解させている。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</li> <li>・地図・グラフなどの図表は、見やすい配色で資料の読み取りがしやすい。（24年度よりも資料の掲載数が増加している）。統計資料を掲載し、自主学習で活用しやすい工夫をしている。分布図（降水量・人口・産業）を見比べたり、共通点を見いだす基礎的基本的な知識を習得できるよう工夫している。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の理解を高めるため、言語や・用語・記号等の使い方にどのような工夫が見られるか。</li> <li>・敬体でわかりやすい表現がされており、具体例を示し読んで理解しやすい。</li> </ul>
総 括		<p>（全体的な特徴、その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の最初に単元を貫く学習追究テーマを決める手立てが示され、課題を明確にし、生徒が追究していくよう工夫されている。</li> <li>・学習のふり返りで学習課題に沿ったまとめが例示されているので、地域的特色を捉えやすく、まとめの仕方のモデルが示されていてよい。</li> <li>・領土問題は、本文のほか、「地理にアクセス」で補足（2ページ）</li> <li>・防災は本文のほか、「深めよう」（震災と防災・減災への取り組み）（2ページ）</li> </ul>

項 目		中学社会 地理 地域にまなぶ (教出・17)
教育基本法、学校教育法の下の中 学校学習指導要領の 教科の目標とのか かわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の諸地域、日本の諸地域それぞれテーマを設定して、各地域の地理的特色を追究し理解を深める構成になっている。</li> <li>また、必要な地形図・図表などの資料が大きく、鮮明に掲載され、資料の読み取りがしやすい。また、資料を読み取るための解説（「地理にアプローチ」）により、資料活用能力をのばし、地理的な見方・考え方を深めることができる。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諸地域の学習の初めのページに、地形図と雨温図が掲載され、地形と気温の特色の関連性を身につけさせる工夫がされている。「学習のまとめと表現」で単元の学習をふりかえり、基礎基本の定着を図ることができるよう配慮されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ふりかえる」のコーナーで、本時の学習をもとに「書き表そう」「まとめよう」などの課題が設定され、表現力等の育成につながる。 「世界の様々な地域の調査」と「身近な地域の調査」の単元で、自分でレポートをまとめたり、調査活動などの結果をグループで話し合い・学びあいの活動を行い、言語活動を育成することが可能である。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にとって親しみやすい中学生や教師のキャラクターが登場し、気づきや問い、学習の手がかりなどが示されている。学習者の視点を取り入れることで、共感しながら学びに取り組めるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種の主題図を資料として活用できるように、課題も付け加えている。P78</li> <li>特設ページ「地域から世界を考えよう」「現代日本の課題を考えよう」では、今日的な課題を通して課題を考えさせるページになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各地域の1時間毎に学習課題を設定し、「ふりかえる」でまとめさせている。地域全体の特色を捉えさせるために、「テーマを決めて～をとらえよう」という学習課題を設定している。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</li> <li>・「世界の諸地域」の導入では、地図と雨温図から入っていて、写真から入るようなイメージづくりが弱い。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の理解を高めるため、言語や・用語・記号等の使い方にどのような工夫が見られるか。</li> <li>・学習の導入（本文冒頭、資料など）から、学習課題、それを解決する文章、まとめにいたる構成と記述が整っており、大変読みやすく、学習事項の確実な定着を図ることができるよう配慮されている。本文と資料を結びつける番号により、自主学習を促せるよう工夫している。</li> </ul>
総 括		<p>（全体的な特徴、その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界の諸地域」「日本の諸地域」では単元を貫く学習課題が設定され、毎時間が継続性のある学習となっており、地域的特色を捉えやすい。</li> <li>・日本の領域P128、領土問題P130：3国との対立の歴史的背景と地図資料で具体的に明示している。</li> </ul>

教科名（社会科・地理的分野）

項 目		社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土 （帝国・46）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「技能をみがく」コーナーにより、資料の具体的な見方、考え方、表現方法など地理学習に必要な技能を習得できるよう工夫されている。</li> <li>・世界の諸地域・日本の諸地域ともに、導入写真（2ページ）→自然環境→生活・文化・産業、テーマを設定した学習の配列で、各地域的特色を追究していく構成となっている。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「技能をみがく」で地理の基礎的な技能を身につけるコラムを紹介し、学習スキルを学ぶ学習活動が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見開き右下「説明しよう」「確認しよう」のコーナーにより、本時の学習をふりかえり、自分なりに文章にまとめたり表現して、言語活動を行う場面が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸地域、日本の諸地域とも、各節の冒頭2ページにその地域の地理的特色をあらわす写真が導入資料として掲載され、学習する地域へ興味関心を引き出す工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を毎時間設定するとともに、特色や変化等に注目させて地理的な見方を養う課題を設定し、学習を追究できるよう工夫している。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、始めに写真資料から地域的特色を捉え、次にそれを裏付ける自然環境（地形、気候、歴史文化等）を理解し、ここで地域的特色を捉える学習課題を見開き右ページ下に提示している。各地域的特色を写真資料から興味付け追究させている。最後に「学習をふりかえろう」で「説明しよう」で学習テーマについて表にまとめている。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</li> <li>・写真資料が、現地取材を行い世界・日本の人々の生活・営みがわかるようなものが使われている。幅広の写真資料や地図、グラフなど大きく見やすく提示され、興味関心が高まるよう工夫されている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の理解を高めるため、言語や・用語・記号等の使い方にどのような工夫が見られるか。</li> <li>・文章は、具体的な事例を交えたり、地理的事象の背景なども解説があり、丁寧で理解しやすいよう配慮されている。</li> </ul>
総 括		<p>（全体的な特徴、その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真資料が多く、生徒の興味や関心をわかせるながら学習が進んでいる。</li> <li>・日本の領域P124、領土問題P126：北方領土国境の変化の地図を掲載している。</li> <li>・自然災害P144 災害への備えP146 ハザードマップP148（トライアル地理）</li> </ul>

教科名（社会科・地理的分野）

項 目		中学社会 地理的分野（日文・116）
教育基本法、学校教育法の下の中 学校学習指導要領の 教科の目標とのか かわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の諸地域・日本の諸地域ともに、各州・各地域ごとに適切なテーマを設定して、それをもとに地域的特色を追究していく構成となっている。</li> <li>また、最後の2ページで、州・地方の学習を掘り下げる特設ページ「自由研究」「地域からのメッセージ」「学習のまとめ」により、州・地方の地域的特色をについて、理解を深めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
特色	内 容	<p>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「スキルUP」で地理で学ぶ技能を紹介している。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動コーナー（考えよう・伝えよう・読み取ろう）、「学習の確認と活用」、「トライ」「スキルUP」「学習のまとめ」など、毎時間、言語活動を設定している。</li> </ul> <p>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開きで1時間を設定し、最初に学習課題となるキャラクターの吹き出しがあり、スムーズに学習に入れる工夫がある。</li> </ul> <p>＜地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の始めに学習課題を提示し、最後に「確認」と「活用」で説明やさらに深く考える内容を盛り込んでいる。</li> </ul> <p>＜我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、導入として地形図と気候から入り自然環境を理解した上で、大きな学習課題を提示している。個々の事象を通して地域的特色をあげている。最後に学習のまとめとして、大きな学習課題にそったまとめを穴埋めと文章でまとめる課題を提示している。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</li> <li>世界や日本の地理的特色をイメージできる写真、地図資料が豊富。地形図や分布図、雨温図がサイズと配置が統一されており、資料からの読み取りを容易にしている。資料の大きさを変えるなど見せ方の強弱がやや弱い。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の理解を高めるため、言語や・用語・記号等の使い方どのような工夫が見られるか。</li> <li>本文の文字量が適量で、具体例や地理的事象の関連性や結びつきも踏まえて、わかりやすく解説している。資料との関連において、図番号をつけることで、明確にしている。</li> </ul>
総 括		<p>（全体的な特徴、その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開きで1時間の中に、学習課題や課題に対するまとめを言葉でまとめる工夫がされている。また、コラムや現地の人々の声を載せたりして学習を深める手立てがある。</li> <li>防災学習：P144～ 「地域からのメッセージ」 P146～149 東日本大震災、南海トラフ、ハザードマップ</li> <li>日本の領域P116 領土問題P118 北方領土国境の変化の地図を掲載している。 北方領土・竹島・尖閣諸島の位置</li> </ul>

## 社会科（地理的分野）調査資料

### 1 内容別ページ数

	東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
第1編 世界のさまざまな地域				
第1章 世界の姿	16	12	12	12
第2章 世界各地の人々の生活と環境	22	18	19	18
第3章 世界の諸地域	72	70	77	70
第4章 世界のさまざまな地域の調査	12	12	9	9
第2編 日本のさまざまな地域				
第1章 日本の姿	14	11	12	18
第2章 世界と比べた日本の地域的特色	36	23	35	38
第3章 日本の諸地域	87	90	98	86
第4章 身近な地域の調査	18	14	10	13
索引	4	4	4	4
資料ページ(巻頭・巻末)	7	8	7	9
総ページ数	295	279	280	281

### 2 取り上げている地域

	東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
世界のさまざまな地域の調査	韓国	インド	韓国	ロシア連邦
「身近な地域」で取り上げている市町村(区)名	静岡市	名古屋市	練馬区	愛知県小牧市

### 3 項目数

	東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
発展的な学習(コラム)	50	43	22	55
学び方・調べ方(スキル・技能)	16	16	25	32

### 4 項目別資料数

	東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
統計資料	3	2	0	2
世界の農産物(写真資料)	あり	あり	あり	なし

### 5 その他

写真の配列	東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
			左ページ上の写真が大きめ	

教科名（社会科・地図帳）

項 目		新編 新しい社会 地図（東書・2）
教育基本法、学校教育法の下の中 学校学習指導要 領の教科の目標 とのかかわり		<p>○日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し、理解させるためにどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料図やグラフ・写真を組み合わせ、多面的に考える資料が豊富である。テーマに沿った1つ1つの地域的特色を理解しやすい。</li> </ul> <p>○地理的な見方や考え方の基礎を培うために、どのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注目したい記号に視点を置いているが、わかりづらいところもあり、どのようなことをしたらよいかの視点がほしい。</li> </ul> <p>○我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や写真を関連づけた活用の仕方をしている。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を大きくし、各地方の学習では、自然・産業・人口などの資料の読み取りをしやすくしている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方ごとの基本資料とテーマ資料が豊富で、調べ学習でさまざまな考察するのに活用できる。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国旗調べがしやすく、教科書を学習するのにも、全般的に資料を探しやすくしている。</li> </ul> <p><b>&lt;地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフなども豊富である。「ジャンプ」の記号で、関連する資料を引くことができる。複数の事象を関連づけて考えることができる。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領土は裏表紙に、写真と地図を結びつけて示している。</li> </ul>
	資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のテーマ学習との関連した資料を活用できるようにしている。</li> <li>・都道府県の産品と名所マークや有名なものは日本地誌の学習にいかせる。</li> </ul>
	表 記・表 現	<p>○生徒の理解を高めるため、言語や・用語・記号等の使い方にどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的に大きな地図を使い、だれでも見やすくするような工夫が見られる。また、さまざまな大きさの地図を使い、記号なども見やすい大きさにしている。</li> </ul>
総 括		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の補助資料として、テーマに沿った学習するのに使いやすい。</li> <li>・もう少し色や色と文字との関係が鮮明だと見やすい。</li> </ul>



教科名（社会科・地図帳）

項 目		中学校社会科地図（帝国・46）
教育基本法、学校教育法の下の中 学校学習指導要領の教科の目標 とのかかわり		<p>○日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し、理解させるためにどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料図だけでもさまざまな種類が数多く載っており、読み取りながら地域的特色をつかみやすい。</li> </ul> <p>○地理的な見方や考え方の基礎を培うために、どのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やってみよう」という鉛筆マークで、地図の見方や考え方を身につけることができる。</li> </ul> <p>○我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな種類の地図を関連づけたりして活用している。縮尺も適切である。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地図を見る目」など、地図の活用の仕方が示され、地図や資料図を読み取ったりする技能を身につけられるようにしている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降水量と農作物、または気温と農作物の関連など、いくつかの資料図を関連させて考察する力を身につけられるようにしている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図がとても鮮明で見やすく、イメージをつかめるようにイラストも添えていてわかりやすく、「やってみよう」という具体的な課題が設けられており、生徒自らが学習しやすくしている</li> </ul> <p><b>&lt;地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を平面的に見るのではなく、山脈や河川などを意識して地域をとらえるような配色や表現をしたり、地域のつながりがわかる地図を新たに載せたりしている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領土は裏表紙に、写真とその写真の範囲を示した地図、模式図を組み合わせて示している。</li> </ul>
	資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図やグラフだけでなく、写真やイラストを多用し、地図を読むことが楽しくなるような工夫が随所に見られる。</li> </ul>
	表 記・表 現	<p>○生徒の理解を高めるため、言語や・用語・記号等の使い方にどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国名（都道府県名）や地形・地形の様子、文字名など、印刷がとてもきれいで目立つように表記されている。</li> <li>・色の強弱がはっきりとしており、地名等を探しやすい。</li> </ul>
総 括		<ul style="list-style-type: none"> <li>・色や文字がきれいで見やすい。</li> <li>・地図を見る視点が分かりやすく、自主的に調べられる。</li> <li>・地図に遊びの要素が含まれ、見ていて楽しくなる工夫が施されている。</li> </ul>

# 社会科(地図)調査資料

## 1 内容別ページ数・地図数

内 容	ページ数 (%)		資料地図の数	
	東書	帝国	東書	帝国
世界全図	3	3		
・全体	12	10	11	9
・アジア	18	22, 5	23	30
・アフリカ	6	3, 5	9	10
・ヨーロッパ・ロシア	12	12	13	23
・南北アメリカ	12	12	22	23
・オセアニア	6	3	7	4
・大西洋・太平洋・インド洋		3		
・日本全体	3	6		
・九州地方	7	6	9	10
・中国・四国地方	8	6	7	8
・近畿地方	8	10	10	11
・中部地方	8	12	12	14
・関東地方	10	12	14	15
・東北地方	5	5	9	9
・北海道地方	9	7	9	7
・自然環境(地形・気候)	4	4	9	10
・自然環境(災害・環境)	2	2	6	6
・人口	2	2	6	6
・資源や産業	11	6	28	20
・生活・文化	2	1	4	3
・地域間の結びつき	4	2	8	7
統計資料	10	9		
索引	13	9		
総ページ数	184	176	216	225

## 2 教科書会社の地図の特色

<p>＜東京書籍＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・州の初めに地形の様子(山や海底)を表した鳥瞰図を載せている。地形の特色はわかりやすい。p21、22</li> <li>・世界の州や日本の地方の基本図の他に、「基本資料」と「テーマ資料」に分けて地図や資料を載せている。教科書のテーマ学習の補助的な資料として活用しやすい。</li> <li>・東京書籍では、地図を大きくして見やすくしたり、地図記号に注目させている。</li> <li>・地図の色合いや、文字など読み取りにくい部分がある。紙面のざらざら感がある。</li> <li>・p22の都市の変遷では、都市に人口が集中する様子を読み取りやすい。</li> </ul>	<p>＜帝国書院＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国書院でも、鳥瞰図を載せているが、地図も大きく、地域の様子がイラストなどを用いてわかりやすく、生徒が活用しやすい。p25、26</li> <li>・色合いや文字がきれいで見やすい。</li> <li>・「やってみよう」という学習課題が設けられており、資料を比較したり、関連づけたりして、地図帳単体で課題にせまれるように工夫している。</li> <li>・帝国書院では、「地図を見る目」という視点を設け、特色に気づかせるようにしている。</li> <li>・帝国書院の「本州中央部」(p103, 104)はとても見やすく、歴史学習や修学旅行などの校外行事の事前学習としても活用しやすい。</li> </ul>
--	--

# 研究調査報告書

教科名（社会科・歴史的分野）

項目		新しい社会 歴史（東書・2）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標と		<ul style="list-style-type: none"> <li>各章の終わりや次の章の初めの見開き2ページで、時代を貫く年表が掲載されており、時代の大きな流れ（古代・中世・近世等）や小学校の既習事項を確認することができる。</li> <li>「私たちの歴史探検隊」のコーナーで、身近な地域の歴史について学ぶ活動を紹介し、郷土を愛する態度を育てる工夫が見られる。</li> <li>我が国の歴史の中で残されてきた文化遺産を豊富に取り上げ、国宝や重要文化財、世界遺産にはマークを付し、我が国の伝統と文化に目を向け、尊重する態度を育成するようにしている。</li> </ul>
特色	内容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き2ページで1単位時間とし、導入資料→「学習課題」→本文→「確認」の流れで構造化し、学習内容が確実に定着するようになっている。</li> <li>各章の最後に「基礎基本のまとめ」のページがあり、重要語句の確認、穴埋め問題など基本事項の確認ができる。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各見開きの右下「確認」や「この時代の特色をとらえよう」「歴史学習のまとめをしよう」を設け、多様な言語活動によって時代の特色を捉えられるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き左上に学習課題や資料の問いが設定されており、1単位時間ごとに主体的に考えさせる導入の場面が工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭に我が国の国宝や重要文化財、世界遺産を紹介するとともに、文化史に十分な紙面を割き、伝統や文化を尊重する資質・能力を育成できるよう配慮されている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章の終わりや次の章の初めの見開き2ページで、時代を貫く年表が掲載されており、時代の流れをイメージして確実に捉える工夫がされている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>復元写真や想像図など、歴史を実感できる資料が豊富である。小さな資料は実物大で掲載してあり、大きな資料にはサイズを付して、生徒がイメージを持って学習できる工夫がされている。地図・グラフ等の図表も見やすい配色が使われている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の語句には、関係のある資料と結びつけるための図番号が付してあり、学習内容を理解しやすくしている。</li> <li>敬体の文章で、丁寧でわかりやすい本文により、一読して学習内容を理解できるようにしている。</li> </ul>
総括	<p>資料を豊富に掲載して視覚的効果を高めている。絵画・写真・図表などの資料が鮮明で、各資料からの読み取りがしやすい。各時代の導入部では、小学校の学習の基礎の上に、中学校の学習を系統的に積み上げられるような活動ができるよう工夫されている。イラスト入りの年表等で歴史の大きな流れを把握しやすい。</p>	

# 研究調査報告書

教科名（社会科・歴史的分野）

項 目		中学社会 歴史 未来をひらく（教出・17）
教育基本 法、学校教 育法の下 の 中学校学習 指導要領の 教科の目標 とのかわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の最初に、日本・中国・朝鮮の年表が掲載され、「時代の変化に着目しよう」で時代の転換を意識させ、「学習のまとめと表現」でそれまで学んだ時代を大観させ、歴史の大きな流れを理解させるようになっている。</li> <li>各時代の最後「学習のまとめと表現」のページに掲載された年表で、中国・朝鮮・世界と我が国との関係を矢印でつなげて示すことで、世界の歴史を背景に日本の歴史の流れを理解できるようになっている。</li> <li>各時代に文化遺産の写真を掲載し、国宝マークを付して、文化の特色を考えるようになっている。</li> </ul>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭「歴史のアプローチ」のページで、歴史学習に必要な絵画資料や系図の見方などの説明があり、生徒に主体的に学んでもらう工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き2ページの右下「ふりかえる」「読み解こう」のコーナーで、本時で学習した内容を要約したり、説明したりする活動が設置され、言語活動の取り組みができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題の明示により、課題意識を明確にでき、「ふりかえろう」「読み解こう」のコーナーや「学習のまとめと表現」での課題の取り組みを通して、生徒の主体的な学習ができるようにしている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域の歴史を調べる学習「郷土の歴史を探ろう」が、各時代ごとに設定され、郷土の伝統と文化の関心を高める学習となっている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「歴史の移り変わりを考えよう」のページで、小学校で学習した歴史上の人物を振り返り、時代区分や年表の見方などを学ぶ活動が設定されている。</li> </ul>
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図・グラフの資料の彩色が明るく、見やすい。</li> <li>写真も鮮明で、特に白黒写真がはっきりしており、写真資料からの読み取りがしやすい。</li> </ul>
	表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふりがなの大きさが適切。行間が広めにとっており、読みのつまずきが軽減される。</li> <li>本文の意味のわかりにくい語句について、番号をつけて、欄外に説明が表記してあり、生徒の自主学習がしやすい表記になっている。</li> </ul>
総 括		<p>地図やグラフの資料の配色が工夫されており、資料からの読み取りがしやすい。また、巻末の年表は、全時代を一覧できる両開きの折り込みページになっており、時代の流れをつかみやすい。生徒に親しみやすいキャラクターを用いて、気づきや問い、学習のヒントなどが示され、共感しながら学習に取り組めるように工夫されている。</p>

# 研究調査報告書

教科名（社会科・歴史的分野）

項目		歴史 日本の歴史と世界（清水・35）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわ		<ul style="list-style-type: none"> <li>各章の最後「まとめてみよう」のコーナーにより、日本の歴史の動きを世界の動きを背景に理解させる学習を設けている。</li> <li>日本史を理解する上で必要な世界史的な背景について、地図資料を効果的に掲載して丁寧に記述されている。</li> <li>仮名文字、絵画資料の見方、郷土資料館の活用法、フィールドワークなどのテーマで特設ページが設けられ、文化遺産を尊重する態度の育成が図られている。</li> </ul>
特色	内容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き2ページの1時間ごとに「まとめてみよう」のコーナーで、授業の学習内容を文章でまとめたり、整理させる工夫が見られる。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き2ページの右下「まとめてみよう」で、具体的課題が提示され、本時の学習を振り返り、自分の言葉で表現したりまとめることで、思考・判断・表現力の育成ができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史上の事件や人物を取り上げたコラムや資料が随所に掲載され、生徒の興味関心を引き出し、多面的に歴史を考察できるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「もっと知りたい」のページで、神話と伝承、仮名文字、人物伝、留学生などを取り上げ、我が国の伝統や文化および世界に与えた影響などを提示し、歴史への愛情と国民としての自覚が育成できるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章末に年表や写真などから各時代を振り返る「〇〇の時代をまとめてみよう」のページにより、歴史の移り変わりや出来事・事象の歴史的意義を考えられるようになっている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史地図や写真・文字資料など配色が豊かで、豊富に掲載されており、視覚的な効果を高めている。重要な世界地図を大きく掲載し、同時期の日本の歴史を学ぶ上で、効果的である。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章表現は丁寧で易しく、読みやすい。</li> <li>各ページ半分の幅に資料を掲載しているので、本文の掲載幅が狭くやや読みにくい。</li> </ul>
総括		<p>資料が豊富で生徒の興味関心を高め、各章のまとめのページで、世界の動きとともに日本の歴史の動きを確認する工夫がされている。資料が豊富に掲載されているが、本文の量が少なめで、歴史の自主学習のための教科書としては、情報量がやや少ない。</p>

# 研究調査報告書

教科名（社会科・歴史的分野）

項目	中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き（帝国・46）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各章の初め「タイムトラベル」のページで、各時代の想像図からイメージを大きくつかむことができ、時代を大観する土台作りとなっている。</li> <li>文化史のページが充実しており（4ページ・豊富な資料）、伝統や文化の教養を深め、我が国の郷土を愛する心を養うよう配慮されている。</li> <li>古代の日本形成については、東アジア諸国とのかかわりを重視した記述がされている。また、古代文明や宗教、近世のヨーロッパとの結びつきの記述が充実しており、日本への影響が理解できるよう工夫されている。</li> </ul>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き1時間のページで、導入資料→「学習課題」→本文→「確認しよう」「説明しよう」の流れで構造化されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各部末の「学習を振り返ろう」では、「説明しよう」の課題が設定され、学習した内容を自分の言葉でまとめたり表現したりする表現力の育成ができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にとって親しみやすいキャラクターを配置し、発問や気づき、学習の手がかりなどを提示して、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化史のページでは、文化を形成した人々の活動、人々の努力や工夫する姿などにも触れたり、随所に祭りや伝統行事を事例として掲載し、日本の伝統・文化への理解を促し、尊重する心を養えるようにしている。</li> <li>領土をめぐる問題について特設ページを設けて、現在に至るまでの歴史的経緯を丁寧に解説している。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章末の「時代を振り返ろう」で、年表・地図・資料から学習内容を振り返り、時間的・空間的に知識を整理し、時代を大観する学習をすることができる。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真・図・地図資料が豊富に盛り込まれて、鮮明で、大きく、彩色も明るく、資料の読み取りがしやすい。導入資料は大判で掲載され、興味関心を高める。「人物コラム」は日本の歴史に足跡を残した人物を紹介し、歴史に親しみがもてるよう工夫されている。</li> </ul>
表記表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>各見開きは、本文・資料・側注などのレイアウトが統一され、授業・学習が進めやすく、知識の定着を促す構成になっている。</li> </ul>
総括	<p>各ページとも、レイアウトが統一され、本文と資料とのバランスがとれている。「技能をみがく」コーナーが充実しており、歴史学習の基礎的・基本的な技能が習得できるよう工夫されている。人権のコラムが各単元に盛り込まれ、人権教育の推進を図る工夫が盛り込まれている。イラストで各時代の様子をイメージしやすい工夫がなされているが、古代・中世等、歴史の大きな流れを把握する年表はみられない。</p>

# 研究調査報告書

教科名（社会科・歴史的分野）

項目	中学社会 歴史的分野（日文 116）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標と	<ul style="list-style-type: none"> <li>各章の初めに、「地図で見る世界の動き」のページがあり、世界地図・年表とあわせて諸外国の歴史と日本との関わりを関連付けて捉えさせようとしている。</li> <li>「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げよう」のページで、各時代の文化、生活、防災、環境など様々な視点から歴史学習を補強し、興味関心を高める工夫が見られる。</li> <li>世界の古代文明や宗教のおこりなど、世界史の教材が充実している。また、全単元を通じて、東アジアの地図や世界地図を掲載し、世界史の中の日本史として、広く国際的視野に立って理解できるようにしている。</li> </ul>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き2ページを1時間授業としている。何を学ぶかを「学習課題」で明確に示され、本文の記述と資料が一体化して学習内容を捉えやすい。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各時代に「学習の活用・とらえよう！〇〇時代の特色」と「とらえよう！〇〇時代の転換」が設定してあり、資料をもとに調べたり考えたりして、わかったことを自分の言葉で表現する学習活動ができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「歴史を掘り下げる」「先人に学ぶ」のページを設けて、生徒が興味・関心をもって主体的に学習に取り組む工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の国宝や世界遺産などを豊富に掲載している。また、文化財の保護・継承に大きな役割を果たした先人や現在の取り組みも紹介して、伝統や文化を大切にする態度を養おうとしている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の前半に「時代の転換」を捉える学習活動が展開し、また、「まとめ」で習得した知識を活用して時代の特色を大きく捉える学習活動を設定している。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真資料・地図が大きく、鮮明に掲載されており、生徒の資料を読み取る意欲を喚起し、資料活用能力の向上を図るようにしている。</li> <li>適所に文化財の拡大図を示して、仏像の表情や文化財の質感や色などが伝わるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>左ページの左端に、縦長の年表が示されており、今どの時代の学習をしているのか、時代の把握がしやすい。</li> <li>平易な表現で、歴史の流れや因果関係をていねいに解説している。</li> </ul>
総括	<p>見開き右ページ下「学習の確認と活用」により、本時の学習を振り返る学習活動や、自分の考えを説明することを促す問いかけが提示されている。また、「言語活動コーナー」で、図版の内容を読み取ったり、思考・判断・表現したりする活動を示し、授業や生徒の思考の流れを重視した構成になっている。</p>

# 研究調査報告書

教科名（社会科・歴史的分野）

項目		新しい歴史教科書（自由社・225）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「序章歴史のとらえ方」では、年代の表し方と時代区分の解説がわかりやすく解説されている。</li> <li>・各章の始めで歴史の移り変わりや時代の大きな流れを理解させるページは見られない。</li> <li>・世界のおもな歴史、出来事、アジア・ヨーロッパ情勢を取り上げながら、日本の出来事を詳細に述べている。</li> <li>・「人物クローズアップ」や「もっと知りたい」のコーナーで、文化史や文化人について、日本の文化を広い視野に立って紹介し、歴史に対する愛情を高める工夫が見られる。</li> </ul>
特色	内容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっと知りたい」のコーナーが充実しており、文化、人物、社会などの面から本文を補足して、歴史の興味関心を高め、理解を深める工夫が見られる。</li> <li>・「歴史豆辞典」で、100字程度の用語解説が各章のまとめとして掲載しており、基本事項の理解の一助となっている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まとめにチャレンジ」で、本時の学習を振り返り、まとめてみよう・説明してみようなどの課題が設定されており、思考・判断・表現力を高める工夫をしている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の最後「各章のまとめ」で、時代比較・人物比較・ひとこと作文などの課題が設定され、発展的な学習課題で理解を深めるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・序章で地域の歴史の調べ方を具体的に例示している。また、神話や国名の由来、仏像の見方、日本の天皇、武士道と忠義などをコラムのページで解説し、幅広い知識と教養、日本人の道徳心や勤勉さなどを考える機会をもたせる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に掲載されている歴史年表が、縦長に表されており、また、年号と西暦の対照表も掲載され、出来事・事象の時代把握をしやすくする工夫がされている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ページとも本時の学習に関連する写真や図表を大きく掲載し、視覚的にわかりやすく学習できるよう工夫がされている。近現代史で、全体的に人物写真が一部ぼやけている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一文が短く、簡潔で読みやすい。ふりがなも丁寧にふられている。常体で書かれている。</li> <li>・重要語句を太字であらわすとともに、見開きページごとに学習課題を設け、課題意識をもって学習に臨める工夫をしている。</li> <li>・他社と比べて、難解な語句（高校の教科書で使われるような語句）が多く見られる。</li> </ul>
総括	<p>本文の記述と豊富な読み物資料によって、我が国の歴史の流れや文化の特色を具体的に学べるようになっている。中学生にとっては難解な語句が随所に使われており、資料から考えさせる場面が少ない。主体的な学習活動を促す例示がやや少ない。</p>	



# 研究調査報告書

教科名（社会科・歴史的分野）

項目		新しい日本の歴史（育鵬社・227）
教育基本 法、学校教育 法の下の中 学校学習 指導要領の 教科の目標 とのかかわ		<ul style="list-style-type: none"> <li>各章の初めに「歴史絵巻」「〇〇の時代へようこそ」というページを設け、時代を大観し、時代の大きな流れや特色をとらえさせる工夫をしている。</li> <li>各時代を代表する日本の文化遺産や修学旅行で訪れる京都・奈良の代表的な建築物や彫刻、日本のおもな遺跡・史跡などを美しいビジュアルで紹介し、伝統や文化を尊重する態度を育成する工夫がされている。</li> <li>我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることについて、各章「このころ世界は」のページで、日本と同時代の世界の視点でわかりやすく解説している。</li> </ul>
特色	内容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き2ページ（1授業時間）で、学習課題を明確にし、重要語句・重要人物は本文・さくいんともに太字で表記し、わかりやすい構成となっている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き右下「学習のまとめ」や各章末「歴史学習のまとめ」に取り組むことで、学習した内容を活用して、自分の言葉で表現するなど言語活動の充実を図る工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域調査に出かけてみよう」「京都・奈良の文化遺産を調べてみよう」など聞き取り調査・グループ学習などの方法・事例を掲載し、作業的・体験的な学習により歴史への理解を深めることができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭カラーページで各時代を代表する芸術や文化遺産を取り上げたり、国家・社会・文化の発展などに尽くした歴史上のコラムのページが充実しており、我が国の歴史に対する愛情を育てる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章冒頭の「歴史絵巻」では「鳥の目」で歴史の流れを大観し、「〇〇の時代へようこそ！」では「虫の目」でその時代の特色をつかみ、時代の大きな流れと特色を理解できるよう配慮されている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ページとも、上3分の1のスペースを使って、関連する資料を大きく載せ、生徒が視覚的に興味をもって取り組めるよう工夫がされている。とくに、写真・絵画資料の注目すべき箇所をさらにクローズアップして掲載し、資料の読み取りに配慮をしている。</li> </ul>
	表記 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文は平易な言葉で、様々な歴史事象の意味や意義、事象間のつながりなどを丁寧に説明している。難解な用語には、欄外に補足をつけ、理解を助ける工夫をしている。</li> </ul>
総括	<p>写真や図表などの資料を効果的に配置して、本文の理解が深まるようになっている。「歴史ビュー」「歴史ズームイン」「歴史の名場面」「なでしこ日本史」「人物クローズアップ」など多彩なコラムが生徒の多面的・多角的考察、公正な判断、適切な表現力を養うことができる。ただ、全体的にこれらの読み物資料が多く内容もやや難しい所もある。</p>	

# 社会科(歴史的分野)調査資料

## 1 内容別ページ数

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由社	育鵬社
(1)歴史の流れと地域の歴史	14	9	2	11	14	13	5
(2)古代までの日本	44	38	52	38	44	56	51
(3)中世の日本	34	34	32	36	38	28	31
(4)近世の日本	44	42	56	52	50	44	54
(5)近代の日本と世界	98	103	101	97	98	97	98
(6)現代の日本と世界	37	31	27	28	36	44	26
索引	10	8	12	5	8	9	8
資料ページ(巻頭・巻末)	9	14	8	8	13	9	10
総ページ数	287	274	287	268	295	288	290

## 2 取り上げている人物・文化遺産

### (1) 取り上げている歴史上の人物(数)

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由社	育鵬社
原始・古代	21	16	20	19	15	20	23
中世	27	23	26	23	19	23	25
近世	31	27	40	28	28	33	44
近代	52	55	44	54	47	49	72
現代	6	4	5	7	3	6	8
合計	137	125	135	131	112	130	172

### (2) 取り上げている文化遺産(数)

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由社	育鵬社
原始・古代	16	16	21	15	13	18	19
中世	9	9	10	9	6	7	5
近世	10	11	8	7	7	3	6
近代	7	2	3	4	4	2	4
現代	0	1	0	0	0	0	0
合計	42	39	42	34	30	30	34

### (3) 取り上げている国際関係・文化交流(箇所数)

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由社	育鵬社
原始・古代	6	7	5	9	9	10	9
中世	5	5	4	4	5	5	4
近世	10	9	10	9	10	8	9
近代	18	19	16	18	20	25	22

現代	5	7	4	6	7	10	7
合計	44	47	39	46	51	58	51

# 研究調査報告書

教科名（社会科・公民的分野）

項目		新編 新しい社会 公民（東書・2）
教育基本法、学校教育法の下での中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権について、左ページに条文を掲載し、資料から理解できるようにしている。日本国憲法の学習を中核としながら、「子どもの権利」など今の自分たちにとって大切な権利も学んでいる。</li> <li>・「効率・公正マーク」が付されている箇所があり、民主主義の大切さを示している。活動の中で、さまざまな単元で効率公正を重視している。</li> <li>・政治の単元では最新の写真・新聞記事を取り上げて、我が国の政治の仕組みを理解できるようにしている。「公民にアクセス」で学習の深化をしている。</li> <li>・身近で楽しい活動が豊富である。（市長選立候補やコンビニの経営者）</li> </ul>
特色	内容	<p><b>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この章の学習を確認しよう」で、用語の確認・空欄補充、説明問題、図の中での知識整理を通して知識を身につけることができる。・章の最初に学習する主要用語をしめしている。</li> </ul> <p><b>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「えんぴつマーク」で、学習のねらいを達成するためにテーマについて考える活動がある。「公民にチャレンジ」で史料活用や話し合い活動で言語活動の充実を図ることができる。</li> </ul> <p><b>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちがいのちがい」など、人権をこれから学習する中で、イラストやグラフを通して自分の意見を考えることができ、身近なものから意欲的に学習することができる。ディベート活動や話し合い活動を多く取り入れている。資料が大きく、生徒の興味関心を高める工夫がある。</li> </ul> <p><b>＜民主主義に対する理解を深めさせる工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公民にチャレンジ」で選挙シミュレーションなどを取り上げており、民主主義に関する知識を深めることができる。効率と公正で、「体育館の使用」「マンションの駐輪場と駐車場のスペース」を事例として取り上げて、対立から合意を形成していくことを体験できる。</li> </ul> <p><b>＜国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公民にアクセス」で、市長選・国民投票法・選挙権年齢・震災からの復興と防災など、社会参画に関する活動が充実している。新聞を読み取る活動や、ネットによる選挙運動にも触れている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料が大きい。左上の写真などは授業の導入で活用できるものが多い。その資料がわかりやすい。模式図・イラスト・新聞記事の活用で学習意欲を高めている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書体の大きさが適切で、文章表現が簡潔で読みやすい。巻末に用語解説があり、重要語句が詳しく説明されている。ふりがなもこまめである。</li> </ul>
総括	<p>模擬裁判が取り入れられているところに工夫が見られる。話し合う活動が多く取り入れられ、スキルを学びながら社会参画の基礎を養うことができる。思考力・判断力・表現力を高める工夫が見られる。地方自治に関する記述が詳細である。</p>	

# 研究調査報告書

教科名（社会科・公民的分野）

項目		中学社会 公民 ともに生きる（教出・17）
教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導要領の教科の目標 とのかわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権について、判例を掲載しながら学習を進めている。差別がまだあることと、人権尊重が広がってきていることを合わせて取り上げている。自由や権利を守るために義務があるという流れで学習を進めている。</li> <li>・民主主義の理解を深めるために、生徒会活動の討論会を例に挙げており、身近で分かりやすい。日本の選挙制度・国会のしくみの中で、国民の意思を反映する重要性を示している。</li> <li>・新しく導入された裁判員制度の中の「評議評決」をシミュレーションできるページを設けている。学習内容に関連する中学生の活動を取り上げ、主権者としての意識をもたせることができる。</li> </ul>
特色	内容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の最後に「学習のまとめと表現」があり、説明する活動・話し合い活動をすることで、知識の確実な定着を図っている。「ふりかえる」で語句の意味を確認できる。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各ページに「見てみよう」「読み解こう」があり、資料から考えたり読み取って判断して説明したりする活動がある（88）。学習を深めるためにディベートを取り上げている（58）</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読み解こう」「振り返る」では、資料の読み取りから言語活動の充実につなげている。左上の導入に活用できそうな資料には「ふきだし」のコメントが添えられており、そこから意欲的に学習を進めることができる。</li> </ul> <p><b>&lt;民主主義に対する理解を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民主主義を実現させていくために、政治があり、選挙権があるというのを、章の最初で明示している。図や読み物資料を活用しながら、我が国の政治について学習を深化できる。</li> </ul> <p><b>&lt;国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども議会・生徒会選挙など、身近な政治参加を示している。選挙の問題点と、選挙権を保障する制度を詳しく書いている。裁判員裁判のシミュレーション・町づくりプレゼンテーションの活動で社会参画の具体例を示している。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開き左上に、大きく資料を掲載し、興味・関心を高め学習を進めることができる。また、資料も豊富で、「資料庫」で学習を深化できる。</li> <li>・学習のまとめの下には「資料庫」があり、より深める資料等が示されている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章表現が簡潔で読みやすい。本文と資料を関連付けるために番号を付し、学習しやすくしている。</li> </ul>
総括	<p>点字など視覚以外の教材もあって工夫されている。見開き2ページの中で、学習課題で学習の見通しをもつことができる。「ふりかえる」で学習内容の振り返りができる。授業がしやすいように工夫されている。企業の社会的責任も詳細に取り上げられている。メディアリテラシーの扱いがていねいである。</p>	

# 研究調査報告書

教科名（社会科・公民的分野）

項目	中学 公民 日本の社会と世界（清水・35）	
教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導要領の教科の目標 とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の学習を中核とし、えん罪・平等権・社会権については「深める公民」で掘り下げており、それらを保障する制度や国民の義務もイラストを用いて具体的に説明している。</li> <li>・「深める公民」の選挙をめぐる問題で、将来選挙権を持つ生徒に選挙の大切さを考えさせている。民主政治は人権を守るために重要なことだと章の最初に説明し、その中でも間接民主制に焦点化している。</li> <li>・選挙・クレジットカード・TPPなど、公民として大切な知識は「もっと知りたい公民」で取り上げている。写真や図表で視覚的な理解を工夫している。</li> </ul>	
特色	<p><b>内容</b></p> <p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習のまとめ」では、重要語句がまとめられていてそれを説明することで知識を身につけ、最後は穴埋め形式で知識を整理することができる。基礎的基本的な知識の定着につながる。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「風船マーク」でその時間の学習課題について思考する活動を取り入れている。卒業論文作成の活動がある。「深める公民」で思考力を高めることができる。言語活動が充実している。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きページにキャラクターが登場しクイズのようなコメントを発し、そこから意欲的に学習を進めることができる。左上の大きな資料から興味関心を高めて学習ができる。</li> </ul> <p><b>&lt;民主主義に対する理解を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な「体育館」を分け合って使う内容を取りあげ、様々な対立から合意を形成して共生社会を築いていく過程を学習できるようになっている。人権に関する事例や判例が多く、人権尊重の意識をもって民主主義について学習を深めることができる。</li> </ul> <p><b>&lt;国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「憲法改正」や「裁判員制度」や「核兵器根絶」など、国民として知っていたい事柄や持っていたい価値観が示されている。復興や地域活性化で社会参画について示している。</li> </ul>	
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図表が見やすく、配色が工夫されている。その図やイラストは大きく掲載されていて、学習意欲を高め学習を進めることができる。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中の語句の説明が脚注に細かく載っており、理解を高める工夫がある。資料や図表よりも文章説明で知識・理解を深めるようになっている。</li> </ul>
総括	<p>アルバイトも含め労働者の権利を「もっと知りたい公民」で扱っている。学んだ内容を図にして分かりやすくまとめている。消費者問題も詳しい。さまざまな学習活動を提供するよりも読み物資料がとて豊富である。教科書として読んで分かりやすいが、やや情報量が少なく、深く広く学んでいく内容が少ない。</p>	

# 研究調査報告書

教科名（社会科・公民的分野）

項目	社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして（帝国・46）
教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導要領の教科の目標 とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権の学習では、関連条文を載せており、人権の理解を深めることができる。日本国憲法の学習を中核として、天皇も含めすべて平等という「平等権」から始まり差別問題も取り上げ、権利とそれを守る法律なども説明されている。</li> <li>・「トライアル公民」で権利と権利の対立から、公共の福祉をもって合意を形成していく過程を考えることができる。第1章で民主主義とは何かを学習し、そこから人権・政治の学習へとつなげている。</li> <li>・各所に「地理・歴史をふりかえる」の欄があり、各分野を統合した知識を持ってさまざまな思考し行動できるようにしている。シミュレーションなどが充実しており、主体的な学習を進めることができる。</li> </ul>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きページの右下「確認しよう」と「説明しよう」で、基礎的知識の意味を書き出したり説明したりすることで、知識の定着を図っている。各章の最後の「学習をふりかえろう」では、一問一答形式で語句の確認ができる。知識の確実な定着に工夫が多い。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「トライアル公民」が豊富で、単元の最後にはその内容に関連した事案を思考する活動や、発展としてディベートやKJ法でまとめるなどの活動がある。「確認しよう」「説明しよう」で、学習を文章で表現して振り返るなど言語活動の充実が図られている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表紙の裏に「私たちと公民的分野の学習」で、一生通じて公民と係ることを認識できるので、いろいろ学んでいこうという意欲を高めることができる。「クローズアップ」の資料が大きく掲載されており、興味・関心を高め学習をすることができる。</li> <li>・各章の最初に「学習の前に」があり、これから学習する内容を見開きのイラストから発見してつかむことができる。（104）</li> </ul> <p><b>&lt;民主主義に対する理解を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「中学生が社会を動かした」を例に、民主主義の学習を進めているので、理解も深まり、かつ将来の主権者としての意識だけでなく社会参画の大切さも意識できる。</li> </ul> <p><b>&lt;国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入された裁判員制度の理解を図るために、実際の事件を題材として判決を考える活動がある。新聞を読み取るなどメディアリテラシーも取り上げられている。町づくりや防災について取り上げ、社会参画へとつなげている。</li> </ul>
総括	<p>・「クローズアップ」で見開きページ1時間分の導入に活用できる資料が大きく左上に載っていて、意欲的に学習を進めることができる。記事も最新。</p> <p>・索引の用語を調べる際わかりやすいようにメインページが太文字数字になっている。実際の場面を読んで社会のしくみを理解できるようにしている。</p> <p>独占や寡占の状態を説明する図がわかりやすい。難しい内容は、イラストも添えて説明していてとてもわかりやすい。学習するうえで外せない資料が網羅され、授業を構築しやすい。また文章表現がやさしく丁寧で安心して学習を進めることができる。</p>

# 研究調査報告書

教科名（社会科・公民的分野）

項目	中学社会 公民的分野（日文・116）
教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導要領の教科の目標 とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権や国民の義務に関する記述はもちろん、裁判や刑事事件に関する人権についてもコラムなどで取り上げて、尊重の意義を説いている。基本的人権は関連条文を載せることで、理解を深めることができる。</li> <li>・さまざまな章で「対立と合意」の扱いが多いことに加え、一票の格差を「チャレンジ公民」で取り上げていて、民主主義の学習を深化している。実生活に即した学習を図解やイラストを活用して進めている。</li> <li>・ワーキングプアなど将来大人として関わる主要な問題を「明日に向かって」や「公民+@」で取り上げている。シミュレーションやディベートなど主体的な活動を通して主権者としての意識を持つことができる。</li> </ul>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きページの左側にこの時間の重要語句がまとめられており学習のポイントがつかめる。「学習の確認と活用」で、空欄補充・文章による説明を行うことで、知識を確実に身につけることができる。「読み取ろう」で、グラフや図の読み取り活動をし、技能を高めている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「チャレンジ公民」で、「自由」について思考する活動と、それを論理的に考えるための表現としてブレインストーミングや図解化を取り入れて学習を深化している。言語活動の充実で思考・判断・表現力を高める工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えよう」「伝えよう」で、各課題について個人や集団での考察や話し合い活動を取り入れ、主体的に学習することができる。「図解ナビ」で各章の導入はイラストやマンガや写真から、学習の内容を探し出す活動となっており意欲的になれる。</li> </ul> <p><b>&lt;民主主義に対する理解を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな章で、「対立と合意」を扱うことが多く、実社会がすべて民主主義に基づいていることを理解しやすい。「チャレンジ公民」「アクティビティ」「政治ナビ」で人権とのかかわりや論理的な考え方を重視している。</li> </ul> <p><b>&lt;国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「明日に向かって」で、現在話題となっている「18歳選挙権」について学習を深化している。また「バリアフリーを目指して」で、社会参画の大切さを理解できる。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用語解説のページが索引の前に設置されている。幅広の図面で図表も配色が鮮明で大きく見やすい。公民の「難しい」イメージを払拭するようにイラストが豊富である。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・索引ページで、メインとなるページは赤で示されている。本文の重要語句と資料に番号を付して関連付け、理解が深まるようにしている。脚注は語句の説明だけにとどまらず資料が豊富である。</li> </ul>
総括	<p>点字など視覚以外の教材があるなど工夫されている。また、株式投資や金利の解説が詳しい。消費税に関する読み取り資料も分かりやすく詳しい。経済の導入の「ライフプランを作ろう」もユニークな活動である。「明日に向かって」（社会参画）「アクティビティ」（理解を深める作業学習）などのコーナーが豊富で学習者が経済活動の主体となって深めている。</p>



# 研究調査報告書

教科名（社会科・公民的分野）

項目	中学社会 新しい公民教科書（自由社・225）
教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導要領の教科の目標 とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法に関して非常に多くのページを割いて説明している。日本国憲法の中の基本的                人権の尊重を中心に、新しい権利にも言及しており、自分たちの権利を主張するには                参政権の行使の重要性を説明している。憲法改正も詳細である。</li> <li>・「課題の探求」でディベートを取り上げており、効率や公正を大切にしつつ、さまざま                な対立からどのように合意を形成していくかを学ぶことができる。</li> <li>・「もっと知りたい」で、「選挙制度」「裁判員制度」「年金制度」「領土                問題」「拉致問題」など日本として重要な課題を取り上げている。</li> </ul>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ここがポイント」で、要点をつかむことができる。「学習のまとめ」で、最重要語句を説                明させる活動がある。要点整理と知識の確認がとていねいである。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習のまとめと発展」では、根拠や視点を明確にしなが説明する活動が示されている。                年金や安全保障などの現実の日本社会の問題を考察する活動がある。400字でまとめる課題                は、表現力を育成するうえで非常に工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっと知りたい」という読み物資料が豊富で、調べ学習につながる。「ミニ知識」のコー                ナーがあり、目の前の政治や経済のニュースともつながる。</li> </ul> <p><b>&lt;民主主義に対する理解を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国民としてはもちろん、グローバル社会のなかで、「世界の公民」としての在り方やど                のように合意を形成してよりよい社会を築くのかを考えさせる学習がある。</li> </ul> <p><b>&lt;国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利や義務、政治の仕組みや経済の理論、国際社会での日本の在り方など、重要なものは図                を用いたり言葉による説明を多めにしたりなど工夫がある。男女共同参画社会・選挙制度・                年金・企業・領土問題を詳細に取り上げ、公民としての必要な知識を身につける工夫がされ                ている。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物にクローズアップして学習内容にせまるという工夫がされている。チャ                ート式やグラフ化など、読み取り技能が大切な資料が豊富である。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要語句を太字ゴシックにし、ふりがなも添えられ、脚注もわかりやすい。                グラフが読み取りやすい。目盛りが見にくいなどのつまずきは少ない。文章                が読みやすい。</li> </ul>
総括	<p>民法と家族で、親等図が取り上げる工夫がある。天皇の国事行為に関して詳細に載せて            いる。領土問題に関する記述が非常に詳細で、再度、裏表紙に「日本の領土」を載せてい            て、知識を深めることができる。年金問題の説明も詳細である。読み物資料が多く、学習            スキルを使った主体的な活動の紹介が少ない。特に地方自治における社会参画の事例が少            ない。</p>

# 研究調査報告書

教科名（社会科・公民的分野）

項目	新編 新しいみんなの公民（育鵬社・227）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「理解を深めよう」で、人種差別・共生社会・信教の自由・少年法など憲法で保障されている基本的人権の学習を深めている。日本国憲法の学習を中心に、法の下での平等や男女平等から始まり、人権について幅広く学習し、その後に義務を学習する流れになっている。</li> <li>・憲法改正のしくみでは国民投票を取り上げ、選挙の仕組みも投票する側から説明している。単元の中の構成が、政党のはたらき・国会・内閣の学習と工夫されており、民主主義の学習を進めやすくしている。</li> <li>・「やってみよう」では裁判員としての裁判の関わり方や、評議評決を行う活動などを行うことができる。領土問題について、政府の見解に基づき詳細に説明しており、教養を培うことができる。</li> </ul>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習のまとめ」で、1ページで重要語句の確認や、図の中での基礎的知識の確認ができるようになっている。説明問題の中で、言語活動の充実を図っている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリテラシーが大切な中、大きな違いが出る「新聞の社説」を比較する活動を取り入れている。学習の振り返りで、内容を自分の言葉で説明したり調べることで、思考力・判断力・表現力を育成できる。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の最初の「〇〇の入り口」で、政党を選んでみる体験や、外交官になって国際社会の課題を解決する体験をする活動がある。人権に関する読み物教材が豊富で、興味をもって学習を進めることができる。話し合い・ディベートなど活動が豊富である。</li> <li>・人生ものさしで、公民と人生の関わりを理解することができる。</li> </ul> <p><b>&lt;民主主義に対する理解を深めさせる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接民主制と間接民主制を比較できるようにしている。憲法改正でも民主主義を扱っている。最新の資料で政治学習を行うことで、国民の立場から政治の仕組みを学ぶことができる。</li> </ul> <p><b>&lt;国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の防衛の課題を分かりやすく取り上げている。「理解を深めよう」で、公民として知っておくべき知識を補充している。「やってみよう」「政治の入口」で事例に基づき学習することで、主権者としての意識を持つことができる。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要事項に関する図はとて大きく示している。学習に役立つサイトのホームページアドレスが載っている。図表の配色も鮮明である</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令集の語句で難しいものは赤太字かつ右側に説明が添えられている。ふりがなもふられている。文章も易しく読みやすく理解しやすい。</li> </ul>
総括	<p>一票の格差と選挙制度の図がとてわかりやすい。各章で取り上げている人物がとて豊富で興味を持つことができる。平等権に関して多くのページを割いて説明しており、人権の中でも大切な平等権を詳しく学習することができる。導入教材で身近なものを取り上げており、学習を進めやすくしている。社会参画の事例がやや少ない。</p>

# 社会科(公民的分野)調査資料

## 1 内容別ページ数

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由	育鵬
(1)現代社会と私たちの生活							
ア 現代日本の歩みと私たちの生活	18	13	12	17	20	17	22
イ 個人と社会生活	9	10	4	10	9	17	10
(2)国民生活と経済							
ア 私たちの生活と経済	29	45	40	54	44	22	41
イ 国民生活と福祉	20	15	21	8	11	13	8
(3)現代の民主政治とこれからの社会							
ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	35	40	34	30	44	18	39
イ 民主政治と政治参加	48	44	32	41	46	31	45
ウ 世界平和と人類の福祉の増大	38	35	32	34	30	40	37
索引	7	9	3	4	8	6	3
資料ページ(巻頭・巻末)	30	25	31	24	23	33	29
総ページ数	248	248	223	232	249	232	248

## 2 取り上げている具体的事例(箇所数)

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由	育鵬
(1)現代社会と私たちの生活							
ア 現代日本の歩みと私たちの生活	74	36	35	41	62	24	111
イ 個人と社会生活	9	13	15	53	15	18	7
(2)国民生活と経済							
ア 私たちの生活と経済	81	70	53	77	48	39	128
イ 国民生活と福祉	37	34	31	14	30	21	22
(3)現代の民主政治とこれからの社会							
ア 人間尊重と日本国憲法の基本的原則	95	83	58	47	72	29	67
イ 民主政治と政治参加	92	82	33	107	73	59	63
ウ 世界平和と人類の福祉の増大	92	71	43	75	67	54	58

### 3 項目別ページ数

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由	育鵬
発展的な学習	2 2	2 0	4 4	2 0	3 4	4 2	2 4
学び方・調べ方	9	6	2	5	1 1	1 0	1 6

### 4 項目別資料数

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由	育鵬
地図	2 1	1 5	1 1	2 3	1 8	2 1	1 3
さし絵	1 5 3	8 7	3 3	1 6 1	7 2	4 8	6 7
写真	4 2 5	2 6 3	2 1 1	4 6 1	3 2 1	2 0 8	4 2 1
統計資料	1 3 3	1 2 1	1 0 6	1 5 2	1 1 0	6 3	8 4
読み物資料	1 1 4	5 2	3 4	1 0 8	6 2	4 6	5 6
学習のまとめ	5	5	5	1 6	5	6	5
折り込み図版	0	0	0	0	0	0	1
注記の数	2 9 2	1 9 3	2 0 7	3 0 1	1 7 2	1 8 6	4 6
索引の項目	5 8 1	4 8 1	4 6 4	7 0 4	6 4 0	5 4 4	5 3 6

### 5 テーマ別一覧

	東書	教出	清水	帝国	日文	自由	育鵬
平等権・差別 (ページ数)	8	6	6	6	6	2	1 0
地方自治 (ページ数)	1 4	1 0	6	1 2	1 0	4	8
悪徳商法の種類 (事例数)	6	0	3	0	4	3	4
需要と供給	図・特設 ページ	図・特設 ページ	図	図	特設作業	図	図
領土問題 (ページ数)	4	2	1	2	1	5	4
防災 (ページ数)	4	4	2	3	3	0	5
持続可能社会 (ページ数)	5	8	3	2	4	6	6

# 研究調査報告書

教科名（ 理 科 ）

項 目		新編 新しい科学 （東京書籍・2）
教育基本法、学校教育法の下の中 学校学習指導要 領の教科の目標 とのかかわり		<p>○観察・実験などにおいて、探究的な学習過程を設定し、科学に関する知識・能力を身につけ、真理を追究しようとする態度の育成を図っている。</p> <p>○科学的視点に基づき、持続可能な社会構築に配慮した態度の育成を図っている。</p> <p>○学習指導要領等に基づき、道徳との関連について、生命尊重、自然愛護など理科の特質に配慮した態度育成を図っている。また、真理や他者意見の尊重等にも配慮している。</p> <p>○我が国の伝統的産業、文化、科学史との関連に配慮している。</p> <p>○キャリア教育の視点から、学習内容と職業との関連等を位置付けている。</p>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b> 課題に対する結論を「まとめ」として明示。復習等の自学自習に配慮している。要点は別欄「ここがポイント」で明示。さらに、例題・練習・確認、考え方等、つまずきを克服し、思考を補助する配慮がみられる。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b> 「レポートの書き方」をはじめ、実験・観察結果を表現するための支援が充実している。また、「予想しよう」「推測しよう」等、活動のねらいが明確となる見出しが設定されている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b> 学習前と学習後に同じ内容を問う「before&amp;after」で、生徒が自らの学習の成果を実感できるような配慮をしている。これにより、理科を学ぶ上での学習意欲向上を意図している。</p> <p><b>&lt;実社会・実生活との関連を図る工夫&gt;</b> 導入に、身近な事象、生物の観察を多く取り入れている。コラム「科学でGO!」「ニッポンの科学」等で、日常や社会との関連を振り返れるように工夫している。</p> <p><b>&lt;科学的な見方や考え方を育成するための工夫&gt;</b> 探究活動の過程に直結した言語活動を配置。学習後に「学びを活かして考えよう」「どこでも科学」「科学でGO!」を設定し、内容理解の深化を図っている。単元末の確かめにはPISA型・活用型問題にも対応。</p> <p><b>&lt;安全・環境保全の重要性を認識するための工夫&gt;</b> 理科室の決まりと応急処置を全学年掲載。実験中の地震発生に対応する記述。観察・実験ごとに、観点類型をアイコン化した注意マーク。野外観察を通じた、生命尊重、自然環境の大切さに気づく支援。「科学でGO!」等での持続可能な社会への意識醸成。</p>
	資 料	随所に配置されたダイナミックな構図の写真、イラストはインパクトがあり、生徒の興味・関心を高め、内容への理解深化を意図している。付録のペーパークラフトは、立体化による内容理解の深化をサポート。他教科との関連を「○○科で学んだこと」「○○科で学ぶこと」で提示し、学ぶ知識の定着を図っている。
	表記・表 現	全体として、文章が短文で簡潔、明快である。難しい漢字にはふりがながあるなど工夫がみられる。理科に関する用語・記号は、学習指導要領はもとより、学術用語集等に基づく適切な記載である。
総 括		生徒の科学的概念形成を配慮した、系統的な編集構成である。アクティブ・ラーニングを意図し、探究学習を全編で展開する。探究の流れが明示され、つまずきに対応した支援も考慮し、生徒が安心して科学に親しみ学べる工夫がなされている。

# 研究調査報告書

教科名（理科）

項 目		理科の世界（大日本図書・4）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<p>○既習事項を振り返るとともに、この単元で学習する内容の見通しをもたせ、学習課題をつかませることにより目的意識をもった観察、実験を行わせようとする工夫が見られる。</p> <p>○全単元を通して学習課題を把握してから観察、実験を行い、結果を考察する科学的な探求の過程を基本とした内容構成に工夫が見られる。</p> <p>○分かりやすい流れの課題解決学習によって科学的な見方を養おうとする工夫が見られる。</p>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b> 単元の『まとめ』を2ページで掲載し、キーワードを確認する形式や詳しい図解でまとめ、つまづきやすい計算は例題と解答例を示す工夫が見られる。また、『基本操作』一覧を目次に見やすく記載している。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b> 分かりやすい流れの課題解決学習によって、また、『結果の整理』と整理した結果から考察する『考えてみよう』を分け、それぞれの活動を明確にすることで、「思考力・判断力・表現力」を養おうとしている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b> 目次の次に『教科書の使い方』のページを新設し、科学的な探求の過程を丁寧に示すこと、また、観察、実験のタイトルと目的を分けて記載し、目的意識を高めさせようとする工夫が見られる。</p> <p><b>&lt;実社会・実生活との関連を図る工夫&gt;</b> 『やってみよう』、『くらしの中の理科』では学習内容が日常生活や社会で活用されている話題を取り上げ、『プロフェッショナル』では、理科の内容と職業との関連がある話題を取り上げている。</p> <p><b>&lt;科学的な見方や考え方を育成するための工夫&gt;</b> 結果を予想する場面を新しく取り入れたことで、従来以上に目的意識をもって観察、実験に取り組み、科学的な思考力・判断力を身につけることができるようにしている。</p> <p><b>&lt;安全・環境保全の重要性を認識するための工夫&gt;</b> 防災・安全教育の指導に関わる内容に『安全』マーク、自然環境の保全に関わる資料に『環境』マークをつけて、意識が高まるように工夫している。</p>
	資 料	<p>○生徒が感心・意欲をもてるように、本文のレイアウトを工夫している。資料や図表、写真を分かりやすく掲載し、本文との関連を考慮して配置している。</p> <p>○読み物資料にはiPS細胞や東北地方太平洋沖地震などの内容も加えられており、学習効果を高める資料が豊富である。</p>
	表 記・表 現	<p>○重要語句は書体をゴシック体の太字に変えて表記し、ふり仮名をつけ基礎・基本の定着を図っている。</p> <p>○用語や数値、単位などは、学術用語集、学習指導要領、理科年表、化学便覧などに従って正確に表記されている。</p>
総 括		<p>○『教科書の使い方』の新設や分かりやすい課題解決学習で目的意識をもった学習活動が期待できる。また、自学自習に配慮し、基礎・基本の定着、学力向上を目指した『まとめ』や練習問題が充実している。そして、小学校とのつながりや自然環境の保全、防災・安全教育、キャリア教育との関連へと学びの広がりを意識した構成である。</p>

# 研究調査報告書

教科名 ( 理 科 )

項 目		中学校 科学 (学図・11)
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり		<p>○単元の初めに小・中の関連・既習事項が示されており、日常生活の中の現象と関連付けた導入の工夫がされている。観察・実験の目的も簡潔に示されており、学習への興味・関心を高めるような資料も多く掲載されている。</p> <p>○観察や実験の内容は基本的なものが多く、生徒が主体的に取り組める内容になっている。観察・実験の「基本操作」についても、手順がわかりやすく示されている。</p> <p>○学習内容にあわせて写真や図が盛り込まれており、分かりやすく学習内容が説明されている。さらに、考えるポイントや学習内容を活用するためのポイントなども示されており、科学的な見方を養うための工夫がなされている。</p>
特 色	内 容	<p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt; 図や写真が豊富にあり、学習内容が分かりやすく説明されている。「学習の確認」や「学習のまとめ」を設けており、学習内容を確認しやすい。また、観察・実験の基本操作についても写真を用いて細かい手順が説明されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt; 観察・実験では「結果」と「考察」が分けて示されており、結果を分析して解釈する力をつけるようになっている。また、レポートのかき方やグラフのかき方についても詳しく説明されている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt; 単元の初めに「思い出してみよう」等で既習内容との関連を示してあり、魅力的な写真と合わせて興味をもてるように工夫されている。単元末問題などでは学習内容を振り返ることができ、つまずきがちな計算問題なども詳しく説明されている。</p> <p>&lt;実社会・実生活との関連を図る工夫&gt; 欄外に「日常生活とのつながり」を設けて説明している。「科学の窓」や「仕事に生かす」などの読み物も多くあり、日常や社会に関連したものが取り上げられており、大変興味深い内容である。</p> <p>&lt;科学的な見方や考え方を育成するための工夫&gt; 「活用」や「話し合ってみよう」などに加えて単元末に「活用しよう」もあり、科学的な見方や考え方を育成するための工夫がなされている。</p> <p>&lt;安全・環境保全の重要性を認識するための工夫&gt; 生命の尊重や自然環境の保全についてわかりやすい事例を用いて説明されている。単元に合わせて「科学の窓」には防災・減災に関する内容もある。</p>
	資 料	<p>○単元末に「学習のまとめ」や「科学を仕事に活かす」、「活用しよう」といった資料があり、単元のまとめを自分で振り返り、学習することができるようになっている。</p> <p>○器具の使い方、レポートやグラフのかき方など、観察・実験に関する資料がどの学年にも巻末にまとめられてあり、手順の確認がしやすく工夫されている。</p>
	表 記・ 表 現	<p>○重要語句を太字で示してあり、特に重要な式などは薄黄色の枠で囲ってある。「活用」「表現」「ことば」等の色分けされたマークが多くあり、見やすく工夫されている。</p> <p>○実験・観察では課題が目立つように示されており、結果、考察とまとめも区別して表示されている。実験の注意点は薄黄色の枠に赤字で示されており、目立つように工夫されている。</p>
総 括		<p>実際にある場面を捉えた具体的な写真が多く用いられており、図と合わせて学習内容を視覚的に捉えやすくなっている。ていねいな文章で説明がなされており、補充的・発展的な内容も欄外に多く掲載されているため、生徒の興味を高めたり、学習を補ったりするような工夫がなされている。科学的な見方や考え方を高めるための要素も各所に盛り込まれている。授業はもちろん、生徒の自主学習にも用いることができるようなものとなっている。</p>

# 研究調査報告書

教科名 ( 理 科 )

項 目	自然の探求 中学校理科 (教出・17)
教育基本法、 学校教育法の 下の中学校学 習指導要領の 教 科の目標との	<p>○「理科学習の進め方」を掲載し小学校での学習活動を振り返りこれから中学校では探求活動をどのように進めていけばよいかを提示している。</p> <p>○科学と日常生活や社会との関連をとらえ、美しい自然の景観などを取り上げることにより、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うようになっている。</p> <p>○本文展開と関連した話題を数多く掲載し、科学が日常やさまざまな事物・現象と深く関わっていることを意識し、科学を学ぶ意義や有用性を実感できるようになっている。</p>
特 色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b> 重要用語が太字かつ朱文字になっている。章ごとに「要点をチェック」を設けるなど、学習を整理できるようになっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b> 単元の終末に、基礎・基本をおさえ、さらに思考力や表現力を問う「活用・応用問題」が掲載されている。</p> <p><b>&lt;主体的に取り組む工夫&gt;</b> 「思い出そう」と銘打って既習内容が丁寧な記述と豊富な図解や写真を用いて取り上げられている。</p> <p><b>&lt;実社会・実生活との関連を図る工夫&gt;</b> 日常生活との関連など、学習したことが活かした知識として使えるように「考えよう」「活用しよう」が積極的に掲載されている。身近なものごとに関わる内容に「生活」マークが掲載されている。</p> <p><b>&lt;科学的な見方や考え方を育成するための工夫&gt;</b> 観察・実験の過程を明確に「方法、結果、考察」と分けて示している。また、分析・解釈する場面や「わたしのレポート」が多数掲載されている。</p> <p><b>&lt;安全・環境保全の重要性を認識するための工夫&gt;</b> 安全に関わる内容に「安全」マーク、環境に関わる内容に「環境」マークが掲載され、生徒の意識が高められる工夫がなされている。</p>
	<p><b>資 料</b> 本文、キャラクターの吹き出し、課題という一連の探求の過程が分かりやすい。そして、思考の流れや学習の展開と関連付けて、整然と配置している。東日本大震災に関する資料が見開き1ページで掲載されている。</p>
	<p><b>表記 ・ 表現</b> 色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字などの工夫が見られる。本文や側注等の文字には、可読性の高いユニバーサル書体を使用している。特別支援教育への配慮がある。</p>
<p><b>総 括</b></p>	<p>第1学年の巻頭で「理科学習の進め方」が示されており、理科学習の進め方分かりやすく一貫性がある。また、レポートの書き方を身に付けるため本文ページで「わたしのレポート」が数多く掲載されている。一連の探求活動のなかで、幅広い知識と教養を身に付けながら真理を求められる。</p>



# 研究調査報告書

教科名 ( 理 科 )

項 目		未来へひろがるサイエンス 啓林館 6 1
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<p>○実社会や実生活との関連を図った情報が積極的に取り込まれ、生徒がより一層の興味を持って理科を学ぶ動機を与えている。</p> <p>○理科室や授業の状況に応じて実験を増やすことができるよう、実験方法が段階別に数多く提示されている。</p> <p>○本冊と別冊を同時に活用し計画・分析・解釈・表現することで、論理的に考え記述する科学的思考力の育成が図られている。</p>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b> 本冊と別冊の相乗効果により、実際に手を動かして書き込むことで、ぼんやりとした知識理解が実感を伴った理解に変わり、基礎学力の定着が段階的に進むようになっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b> 「予想してみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」という場面が適所に設定され、思考の広がりや深まりとともに、提案力の基礎が培われる構成になっている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b> 単元導入から観察・実験、読み物に至るまで、科学への関心を高め、理科を学ぶことの楽しさや意義・有用性を実感できる場面や資料を数多く掲載している。</p> <p><b>&lt;実社会・実生活との関連を図る工夫&gt;</b> 巻末資料の「サイエンスラバー」で地域ごとの自然や伝統産業と科学の関連、「部活ラボ」で部活動の中での科学の話題、各単元末では最新の科学技術や環境・エネルギー・防災等の単元の学習から広がる世界を紹介している。</p> <p><b>&lt;科学的な見方や考え方を育成するための工夫&gt;</b> 実験・観察において、目的意識と見通しをもって取り組めるように、レイアウトが工夫されている。さらに、発展的な実験・観察法が2段階に分けて紹介され、学校の実態に合わせた取り組みができる。</p> <p><b>&lt;安全・環境保全の重要性を認識するための工夫&gt;</b> 実験・観察を安全に行うために、特に注意することを分かりやすく目につきやすいマークで示してある。また、メーカーや種類が異なる装置の操作を複数紹介し、それぞれの注意点が挙げられている。</p>
	資 料	○日本各地の地域性を考慮した資料、日本の伝統技術や最新技術を紹介する資料、学校外の施設の利用に関する資料、環境問題に関連する資料、ICT活用に関する資料等、生徒の興味・関心をかき立てる数多くの資料を掲載している。
	表記・表現	<p>○目的や内容に合わせて、印象的で生徒の目を引く多種多様なマークが使われている。巻頭資料ではそのマークの意味と学習の流れについての説明がされている。</p> <p>○可読性・視認性を意識した特別支援教育の観点によって、デザイン・レイアウトが構成されている。</p>
総 括		本冊には各学年に「マイノート」という、多色刷りの補助教材が別冊として附属している。本冊に合わせて書き込む作業をするうちに、科学的思考力と表現力が育成され、すべての生徒の学力の底上げが期待できる。

研究調査報告書

教科名（音楽）

項目	書名 中学音楽 音楽のおくりもの（発行者略号 教出・番号 17）
教育基本 法、学校 教育法 の下の中 学校学 習指導 要領の 教科の 目標と のかわ り	<p>○音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>学習指導要領に基づいた3つの柱を設定し、共通事項を窓口に音楽を捉えて各教材が示されている。また、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするための教材や解説が示されている。</p> <p>○音楽文化についての理解を深めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>我が国や諸外国の音楽文化について理解できるよう、幅広い分野から教材を取り上げ、日本と他国の音楽文化の共通点や相違点を探る教材を取り上げるとともに、体験を重視した学習活動が取り入れられている。</p>
特色	<p>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫＞</p> <p>○各学年に「指揮をしてみよう」のコーナーを設定し、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達の段階に応じて習得できるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</p> <p>○表現したいイメージのヒントとなる吹き出しには、思考力、判断力、表現力につながる質問や助言が示されており、知覚・感受したことを直接書き込める部分もある。</p> <p>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</p> <p>○各教材には、目標とする学習内容が示されており、「Let's Try!」「伝えてみよう」「音のスケッチ」のコーナーでは主体的に学習を進める構成になっている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫＞</p> <p>○共通事項を窓口に捉えた学習の目標が3つの柱に分類されており、教材ごとに共通事項を示し、系統的・発展的に学習する構成になっている。</p> <p>＜音楽文化について理解を深めるための工夫＞</p> <p>○「日本の歌みんなの歌」「歌のアルバム」では、既習曲を中学生にふさわしい混成合唱に編曲したもの、同一曲を学年に応じて編曲したもの、世代間や他の国との交流を意識した歌唱教材として選択されている。</p>
資料	<p>○日本や諸外国の音楽文化や舞台に関わる情報、「音楽著作権とインターネット」を掲載し、音楽を多面的な角度から学習する工夫がされている。</p> <p>○教材の特徴が捉えやすくなるように文章や資料の配置が工夫されている。</p>
表記 表現	<p>○歌唱の共通教材では、楽譜・縦書きの歌詞・ピアノ伴奏譜・写真が掲載されている。</p> <p>○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」では、掲載ページも示し、発展として「音ってなあに」「音の三要素」が掲載されている。</p>
総括	<p>我が国の伝統的な音楽を鑑賞し体験する資料が充実しておりページ数も多い構成になっている。見開きの写真も充実している。資料集なみの構成となっている。歌唱教材については、新曲も多数取り上げた構成になっている。</p>

研究調査報告書

教科名（音楽）

項目	書名 中学生の音楽（発行者略号 教芸・番号 27）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>『音楽学習MAP』において、学習指導要領に示された学習内容と各教材との関係や、歌唱・創作・鑑賞といった分野を横断した関連図が示されている。また、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするための教材や解説が示されている。</p> <p>○音楽文化についての理解を深めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>我が国や諸外国の音楽文化について理解できるよう、幅広い分野から教材を取り上げ、音楽とその背景や生活とのかかわりに関する資料を掲載するとともに、体験を重視した学習活動が取り入れられている。</p>
特色	<p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫&gt;</p> <p>○各学年に『確認しよう』を設け、ビンゴゲームやリズムゲームを通して、基礎的・基本的な共通事項である音符や休符や様々な記号について、くり返し確認、学習する構成になっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <p>○ここが分かればGrade up!では曲の構成をパートの役割、共通事項と関連させながら思考・判断する場面を設け、表現方法を工夫する構成になっている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <p>○各教材には、学習目標と学習目標に迫る具体的な学習活動の手順、学習の窓口、吹き出しなど、学習に必要な情報が示され主体的に学習を進められる構成になっている。</p> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫&gt;</p> <p>○各学年に学習の目標と学習指導要領に示された共通事項を学習の窓口としてマークで示し、共通事項を学習の支えとしながら、全学年を通して教材が系統的・発展的に組織されている。</p> <p>&lt;音楽文化について理解を深めるための工夫&gt;</p> <p>○我が国や世界の音楽文化について、音楽の特徴やよさ及び多様性を感じとるために西洋音楽史を日本の歴史から捉えるコーナー、聴くポイント、写真が掲載されている。</p>
資料	<p>○日本の伝統芸能のコーナーでは、場面の様子写真が一致している。</p> <p>○日本や諸外国の音楽文化や舞台に関わる情報を掲載し、音楽を多面的な角度から学習できるように工夫されている。</p>
表記・表現	<p>○歌唱の共通教材では、楽譜・縦書きの歌詞・ピアノ伴奏譜・写真が掲載されている。</p> <p>○教材に関連する音楽用語や記号が該当するページに示されており、巻末に『音楽の約束』として発達段階に応じた楽典のまとめが掲載されている。</p>
総括	<p>我が国の伝統的な音楽の扱いとして、1年がソーラン節、2年が長唄「勸進帳」3年が能「羽衣」を取り上げ学年の発達段階を考えられた構成になっている。題材も歌おう→唄おう→謡おうという表記になっていて3年間を見通したものになっている。昔から歌い継がれてきた定番の歌唱教材を大切に扱っている。</p>

# 研究調査報告書

教科名 ( 音楽 )

項目	書名 中学器楽 音楽のおくりもの (発行者略号 教出・番号 17)
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p><b>○音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</b></p> <p>各楽器の基礎を身に着ける「演奏の仕方を身に着けよう」とアンサンブルを中心とした「合わせて演奏しよう」を示すとともに、音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすために、様々な奏法について具体的な資料が示されている。</p> <p><b>○音楽文化についての理解を深めるために、どのような工夫が見られるか。</b></p> <p>リコーダーギター、5種類の和楽器を取り上げ、アンサンブルの中に和楽器を用いた教材も掲載し、我が国や諸外国の様々な音楽にふれるように構成されている。</p>
特色	<p>内容</p> <p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫&gt;</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真やイラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <p>○各楽曲には「演奏のポイント」等、表現を工夫して演奏するための具体的な問いかけやアドバイスが示されている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <p>○各教材には、目標とする学習内容、楽器の奏法がわかる写真が示されており、生徒が主体的に学習できる構成になっている。</p> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫&gt;</p> <p>○教材には、共通事項を踏まえた学習課題(ねらい)が示されており、「音のスケッチ」のコーナーでは、創作活動に取り組めるよう教材が配置されている。</p> <p>&lt;音楽文化について理解を深めるための工夫&gt;</p> <p>○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八が取り上げられており、それぞれの楽器の名手から中学生へのメッセージが掲載されている。また、和楽器を扱ったアンサンブルも掲載されている。</p>
	<p>資料</p> <p>○演奏家の演奏場面の写真とメッセージ、音楽制作現場の写真が掲載されている。巻末には、リコーダーの運指表、いろいろな用語・記号、ギター&amp;キーボード表があり、写真が掲載されている。</p>
	<p>表記表現</p> <p>○和楽器においては、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○楽器の基本的な奏法が写真やイラストを使って説明されている。</p>
総括	<p>○「名曲旋律集」では、名曲の解説とリコーダーで演奏する編曲が掲載されている。</p> <p>○リコーダー、箏、三味線を学習するコーナーには、関連する鑑賞教材が掲載されており、表現と鑑賞の領域を横断する教材が示されている。また、Let's try でより発展的な教材(和楽器とリコーダーの合奏など)が取り上げられている。</p>

# 研究調査報告書

教科名 ( 音楽 )

項目	書名 中学生の器楽 (発行者略号 教芸・番号 27)
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p><b>○音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにするために、どのような工夫が見られるか。</b></p> <p>学習指導要領の内容に示された指導事項及び共通事項との関連が分かるように『音楽学習MAP』を示すとともに、音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすために、様々な奏法について具体的な資料が示されている。</p> <p><b>○音楽文化についての理解を深めるために、どのような工夫が見られるか。</b></p> <p>リコーダーとギター、5種類の和楽器と12種類の打楽器を取り上げ、アンザンブルの中に和楽器を用いた教材を掲載し、アンザンブルを通して我が国や諸外国の様々な音楽に触れるように構成されている。</p>
特色	<p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫&gt;</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度からの写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力を育成する工夫&gt;</p> <p>○活動のヒントとなる「演奏のポイント」「ここがわかればGrade up!」は、思考力、判断力、表現力につながる助言が示されている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <p>○各教材には、目標とする学習内容やその方法が吹き出しなどに示されており、生徒が主体的に学習に取り組む構成になっている。</p> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫&gt;</p> <p>○教材に応じて、学習目標、共通事項を「学習の窓口」としてマークで示し、「My Melody」のコーナーでは、創作活動に取り組めるようになっている。</p> <p>&lt;音楽文化についての理解を深めるための工夫&gt;</p> <p>○箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の特徴や奏法について「音を聴いて確かめよう」「和楽器こぼれ話」などのコラム、楽器の特性や奏法にとどまらず姿勢や礼儀に関する内容も示されている。</p>
資料	○巻頭には、演奏家の写真とメッセージ、リコーダーとギターが活躍する曲、尺八と篠笛の写真が掲載されている。
表記	○和楽器においては、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。
表現	○楽器の基本的な奏法が写真やイラストを使って説明されている。
総括	<p>○「名曲スケッチ」では、名曲の解説とリコーダーで演奏する編曲が掲載されている。</p> <p>○リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、尺八、篠笛の音色を聴くために関連した鑑賞教材が掲載されており、表現と鑑賞を領域を横断する教材が示されている。また、リコーダーのアンサンブルを中心とした楽譜が充実している。</p>

## 美術科調査の観点（開隆堂・9）

目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じて題材内容を系統的に構築するとともに、授業の目標、内容や方法、培いたい資質や能力が具体的に示され、教科の目標を達成することができる。</li> <li>・1学年は基礎的技法や知識を学ぶことができる題材、2、3学年は応用的な技法や知識を学ぶことができる題材と、系統的に内容が構成されている。</li> <li>・造形作品や造形活動を通して我が国の文化や郷土のよさ、アジアを含む諸外国の文化などを伝えるとともに、我が国との繋がりなどにも触れている。</li> </ul>
特色  内 容          資 料	<p>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作手順や技法を写真や図版で示すとともに、基礎的な技法や知識が「囲み」や「掲示板形式の表示」「マーク」で示されて分かりやすくなっている。巻末資料で用具や材料の扱い方、色彩に関する資料などを掲載している。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作者の言葉、生徒や作家の制作過程や作品解説の図版入り掲載等、表現を支える情報を示し、発想や構想の場面で思考力や判断力、表現力が身に付く工夫をしている。</li> </ul> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の目標と内容」や自己評価のための「ふりかえり」の掲載、豊富な資料との関連をマークで示すなど、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫している。</li> </ul> <p>〈対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現題材全般をとおして、発想・構想のヒントとなる考え方が具体的に示されている。</li> <li>・目的や必要に応じた写真や図版によって、表現の特徴をよく捉えることができ、感じ取る力や想像力を高められるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〈創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作過程の写真や図、材料・用具の扱い方などが、生徒の視点に立って説明され、図解を読み取り易くするために、学年に応じた図が系統的に配置されている。また、吹き出し等や写真資料が掲載され、生徒が創意工夫して表現活動ができるよう工夫している。</li> </ul> <p>〈よさや美しさなどを味わわせる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大判の図版や「原寸」での作品掲載等、作品の細部まで鑑賞できるページや、鑑賞活動のきっかけとなる問いかけがあり、生徒の鑑賞の能力を高める工夫がある。平面や立体を問わず、歴史的なものから現代まで幅広く作品を取り上げている。</li> </ul> <p>・「原寸ギャラリー」として、本物に近い形で観て感じる資料を掲載している。</p> <p>・巻末に「色彩理論」や「表現技法」「年表」「鑑賞」等を資料として掲載している。</p> <p>・題材の表現や制作意図を「作者の言葉」として掲載している。発想を促すためのヒントや題材の中で使われる技法、制作過程を写真や言葉、吹き出しで示している。</p>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名の下に「ねらい」を掲載し、学習の「振り返り」を観点別に示している。</li> <li>・基礎的な技法、習得させたい知識や情報を囲み記事で示している。</li> <li>・鑑賞のきっかけとなる問いかけや安全注意に関する内容を色分表示している。</li> <li>・題材に関連した資料のページを下段に、マークとともに表示している。色彩が優しい。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は2冊の編集で、美術1と美術2・3（2、3年生用）となっている。</li> <li>・発達段階に沿った、系統的な題材で構成している。また、実際の授業を想定し、表現と鑑賞を明確に区分せず、題材の中で表現と鑑賞を関連させて働かせる構成としている。</li> <li>・生徒の内面に重点を置き、学習のねらいを設定するとともに生徒作品には作者の言葉を添えている。全題材に、小学校と共通の「学習の振り返り」を掲載している。</li> </ul>

## 美術科調査の観点（光村・38）

項 目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多数の作品で多様な表現方法が学べ、身近なものや職業との繋がりが写真等で示され、美術と生活のかかわりを通して美術を愛好する心情が育成できるよう工夫している。</li> <li>・ 作品とともに詩や作者の言葉、発想のヒント、道徳の学習等との関連をマークや言葉で補足し、美術の基礎的な能力や豊かな感性を伸長するための工夫がみられる。</li> <li>・ 日本と西洋、アジア諸国等さまざまな国や地域の作品を取り上げ、自国及び他国の文化の尊重や、郷土の美術文化を愛し、大切にす態度を養えるよう配慮されている。</li> </ul>
特  色  内 容	<p>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用具の使い方や表現技法を写真や図版資料で提示し、各巻末に、基礎的な技法や資料をまとめ、「学習を支える資料」として参考にできるよう構成されている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒や作家の発想の仕方等を写真等で掲載するとともに、発想、構想のヒントをマークで示すことで、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。</li> </ul> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材毎に目標チェック欄があり、学習の振り返りができることや、生徒の発達段階に合わせた問いかけを掲載することで、主体的に学習に取り組む態度を養う工夫がある。</li> </ul> <p>〈対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマに沿った作品や図版、活動例を掲載するとともに、「みんなの工夫」を示すことで、目的や意図を考えて発想や構想の能力を働かせる工夫をしている。</li> <li>・ 表現の題材に「発想・構想のヒント」をマークで示し、発想を広げたり構想を練ったりする際の参考となるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〈創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な表現方法が掲載され、主題や自分のイメージに合った表現方法を選択することができるよう配慮されている。「学習を支える資料」で、用具の使用法や表現技法が写真や図版で示され、表現意図に応じた表現方法を選択できるようになっている。</li> </ul> <p>〈よさや美しさなどを味わわせる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品とともに詩が取り上げられ、言語活動が意識されている。作品の時代背景や作品と関連する表現活動などの掲載や、作者の言葉がある。また、各題材には作品について考えるための問いかけがあるなど、作品を見ることを楽しみ、感じ取ったことを自由に話し合える工夫がなされている。</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「特別展示室」や「原寸大で鑑賞しよう」を設け、鑑賞活動が充実したものとなるよう工夫している。</li> <li>・ 各巻末の「学習を支える資料」には「トピックス美術史」と「美術史年表」が設けられ、美術文化に関する知識・理解が深まるよう配慮されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習のねらい」や学習を深める内容などを、10のマークで分類して表示している。</li> <li>・ 目標の下に「共通事項」を意識した問いかけがある。</li> <li>・ ページの横に、巻末の「学習を支える資料」との関連がマークで表示されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書は美術1（1年）美術2・3（2、3年）の2冊となっている。</li> <li>・ 生徒の発達段階を踏まえ、3年間を見通した内容構成となっている。</li> <li>・ 題材は「表現」と「鑑賞」に分かれて編集され、関連する美術文化の図版等が取り入れられている。巻末資料にも社会や伝統、自然と関わる図版が掲載されている。</li> <li>・ 学習のポイントが10のマークを使用して示されている。</li> </ul>

# 美術科調査の観点（日文・116）

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情が育つために、魅力ある題材の設定や作品が掲載されている。</li> <li>・文の内容が、共通事項の形・色・イメージの視点で組み立てられ、創造活動の中で生徒が意識することで、感性や美術の基礎的能力の伸長が図れる工夫されている。</li> <li>・昔から受け継がれてきた美術作品や、生活の中のさまざまな用具や造形などから、その国や時代の人々の美意識や創造性について理解できるように工夫している。</li> </ul>
特色	<p>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各題材における基礎的な技法や知識に関連した作品解説や図版、アイデアスケッチなどを掲載し、制作過程などを分かりやすくしている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各題材で生徒や作家の言葉を掲載するとともに、何に注目して創造活動に生かすかという問いかけが提示され、生徒の思考・判断・表現力を育成する工夫をしている。</li> </ul> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の目標を「学びのねらい」として明示し、学習の手立てとなる内容を「Point」のマークを用いて示すことで、生徒が主体的かつ効果的に学習に取り組めるように工夫している。</li> </ul> <p>〈対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチや作者の言葉、写真等から、生徒自らが感じ取ったことや考えたことを基に、表したい主題を生み出し表現できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〈創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法を創意工夫できるように、制作プロセスを豊富に示し、参考にできる資料ページを巻末に設定している。用具の使用法や表現技法が写真や図版で説明され、表現意図に応じた表現方法を選択できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〈よさや美しさなどを味わわせる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図版の選択や大きさの工夫、紙質（和紙の活用）を変えた折り込みページや作者の言葉が掲載され、作者の制作意図が理解でき、作品のよさや美しさをよりよく鑑賞できる工夫がされている。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想から形にするまでの制作プロセスを掲載している。</li> <li>・教科書美術館では見開き4ページを使用した作品や原寸大の作品を掲載している。</li> <li>・巻末に学習に役立つ資料として、材料や用具の扱い方、年表や世界遺産等を掲載している。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名の下に副題を示し、学びのねらいを観点別に載せている。学習の手立てをPointマークで示している。生活と美術との関わりや作家の活動等、学習を深める内容や他教科と関連する部分を掲載している。</li> <li>・参照マークを用いて題材に関連した資料のページを示しており、必要に応じて参考とすることができる。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は美術1（1年生）美術2・3上、美術2・3下の3冊となっている。</li> <li>・生徒の発達段階に応じた多様な学びが選択できる構成になっている。また、絵画彫刻、デザイン・工芸の分野ごとに表現と鑑賞のページを独立して設定した構成となっている。生徒が自己の3年間の成長を見つめ実感できるよう自分・他者・社会・自然といった繋がりと広がりのある題材構成となっている。</li> <li>・生徒目線での発想の仕方と制作手順や技法を適宜示している。</li> </ul>



# 美術科調査資料

## ○分量について

		開隆堂	日 文	光 村
1 総ページ数	1年	58	60	68
	2・3年上	108	58	106
	2・3年下		58	
2 絵や彫刻などに表現する活動のページ数	1年	20	23	23
	2・3年上	36	25	37
	2・3年下		23	
3 デザインや工芸などに表現する活動のページ数	1年	18	17	22
	2・3年上	36	13	33
	2・3年下		15	
4 鑑賞の内容のページ数	1年	12	13	20
	2・3年上	33	2	27
	2・3年下		8	
5 文化・歴史に関する内容のページ数	1年	8	2	3
	2・3年上	37	8	9
	2・3年下		2	

## ○領域別教材数等について

		開隆堂	日 文	光 村	
1 題材数	1年	21	19	27	
	2・3年上	31	17	38	
	2・3年下		17		
2 1題材の教材数	1年	30	8	36	
	2・3年上	90	9	55	
	2・3年下		8		
3 領域別教材数	① 絵画表現の内容	1年	8	3	10
		2・3年上	16	4	13
		2・3年下		5	
	② 彫刻表現の内容	1年	5	2	5
		2・3年上	9	2	8
		2・3年下		1	
	③ デザイン表現の内容	1年	9	3	6
		2・3年上	26	3	8
		2・3年下		2	
	④ 工芸表現の内容	1年	3	2	6
		2・3年上	9	2	7
		2・3年下		2	
	⑤ 鑑賞の内容	1年	5	5	9
		2・3年上	30	3	19
		2・3年下		5	

## ○分種別教材数について

		開隆堂	日 文	光 村
1 生徒の作品数	1年	123	108	88
	2・3年上	187	55	112
	2・3年下		54	
2 日本人の作家の作品数	1年	15	23	48
	2・3年上	101	64	118
	2・3年下		22	
3 外国人の作家の作品数	1年	11	17	16
	2・3年上	78	21	65
	2・3年下		17	
4 その他の作品数	1年	17		15
	2・3年上	61		75
	2・3年下			

## ○その他

		開隆堂	日 文	光 村
1 スケッチの作品数	1年	23	19	21
	2・3年上	29	6	35
	2・3年下		11	
2 共同で行う創造活動の題材数	1年	9	1	2
	2・3年上	10	2	4
	2・3年下		2	
3 資料の写真や図版などの数	1年	158	136	295
	2・3年上	185	101	348
	2・3年下		101	

# 研究調査報告書

教科名（保健体育）

項目	新編 新しい保健体育（東京書籍 ・ 2）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践をするために、「今日の学習」の欄で学習の目標を明確にし、「やってみよう」の欄で自分の日常経験や小学校で学習したことなどをもとに課題に取り組む工夫が見られる。</p> <p>○生涯にわたって運動を親しむ資質や能力を育てるために、習得した知識を活用する学習活動「考えてみよう」の欄で、課題に取り組むような工夫が見られる。</p> <p>○健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てるために、「生かそう」の欄で学習したことを生活に生かす工夫が見られる。</p>
特色	<p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</p> <p>○見開き2ページを1単位時間で学習する紙面構成で、学習の流れが見えるような工夫や「確認の問題」を章末に設けるなど基礎的・基本的知識が習得できる工夫が見られる。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <p>○「考えてみよう」の欄で知識を活用して、意見を発表したり、記述して取り組む活動を、「生かそう」の欄で学習したことを生活に生かしたり、さらに調べたりする課題を提示するなど、思考力・判断力などの資質や能力が育成されるような工夫が見られる。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <p>○「この教科書の使い方」及び「章の扉」で章を構成する要素や学習の流れ、マーク類の開設を示して主体的に学習に取り組めるような工夫が見られる。</p> <p>○本文の資料やその他のマーク「キーワード」「リンク」「発展」を開設し、「クイズ」「やってみよう」を設け、進んで学習することが出来る工夫が見られる。</p> <p>&lt;生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する工夫&gt;</p> <p>○巻頭の「口絵」や「章の扉」を参考にして、「生かそう」の欄で学習したことを自分の生活に生かしたり、調べたりする活動例を示す工夫が見られる。</p> <p>&lt;健康の保持増進のための実践力を育成する工夫&gt;</p> <p>○各章のはじめに「章の扉」を設け、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高等学校で学習することが明記され、学習内容の系統性がわかるような工夫が見られる。</p>
資料	<p>○「巻頭口絵」に今日の課題をテーマにした内容を構成し、学習に関連のある情報やHPを紹介し、ダイナミックなレイアウトで興味・関心を高める工夫が見られる。</p> <p>○学習内容に関連した「読物」資料を掲示し学習内容を深められるような工夫が見られる</p> <p>○本文を補う説明資料・グラフ資料が左右に配置され、「章末資料」として章の学習に関連した資料が各章末に取り上げられたりするなど工夫が見られる。</p>
表記・表現	<p>○学習の「キーワード」を欄外に示し、巻末にその解説を入れるなどの工夫が見られる。</p> <p>○「キーワード」をゴシック体で示し、資料を読み取る観点を示す工夫が見られる。</p> <p>○「資料」など、補足説明を端的に記すなどの工夫が見られる。</p> <p>○見開き2ページを1単位時間の学習内容として「今日の学習」「やってみよう」「本文・資料」「考えてみよう」「生かそう」の流れで学習が進む構成にする工夫が見られる。</p>
総括	<p>○章の扉で、小・中・高の学習内容を示し、系統性がわかるようになっている。学習の流れが見える構成で、本文と資料、写真やイラスト等が効果的に配置されている。また、保健編と体育編が学年ごとに構成されている。各章末に資料や確認問題・活用問題がある。学習のまとめとして章末に自己評価ができる。</p>

# 研究調査報告書

教科名（保健体育）

項目	新版 中学校保健体育（大日本図書・4）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践をするために「今日の学習課題」で学習内容を明確にし、学習を進める工夫が見られる。</p> <p>○生涯にわたって運動を親しむ資質や能力を育てるために「学習を活かして」を設け、学習内容から実生活において活用するための具体的な課題を示す工夫が見られる。</p> <p>○健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てるために「考えよう」で実践化に発展させていく工夫が見られる。</p>
特色	<p>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</p> <p>○「今日の学習課題」「考えよう」に沿って学習する工夫が見られる。</p> <p>○豊富な資料、キーワードにより基礎的・基本的な知識が習得できるようになっている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</p> <p>○各項目に「考えよう」「学習を活かして」を設け、書き込み欄を設けることにより、より深く考えたり、書き表したり、発表することを促すような工夫が見られる。</p> <p>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</p> <p>○章末に「学習のまとめ」を設け、重要な語句や要点を示している。欄外に「ミニ知識」や「トピックス」を掲載し、主体的な学習ができるような工夫が見られる。</p> <p>○興味関心を高める話題を「トピックス」「資料」として開設し、学習内容の理解と定着を図り、主体的に学習に取り組む態度を養うような工夫が見られる。</p> <p>＜生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する工夫＞</p> <p>○運動やスポーツの学び方では、技術・作戦・戦術についてイラストや写真で説明し、視覚的にとらえさせることで、より理解を深める工夫がされている。</p> <p>○絵や資料にオリンピックやパラリンピックなどのスポーツを通じた世界との交流などを大きく取り上げ、運動との関わりの多様性を強調する工夫が見られる。</p> <p>＜健康の保持増進のための実践力を育成する工夫＞</p> <p>○一単位時間の学習ごとに「学習を活かして」を設け、習得した知識を定着させ、自分の生活に生かし、実践力を育成する工夫が見られる。</p>
資料	<p>○ワイドな見開き構成で、興味や関心を高めるコーナー「トピックス」、理解を深める「ミニ知識」を設け、学習内容の理解が深まる工夫が見られる。</p> <p>○生徒の行動に照らして考えられる例示、データ、図など理解を深める工夫が見られる。</p> <p>○左右両サイド下段に本文を補う説明資料やグラフが配置され工夫が見られる。</p>
表記・表現	<p>○一単位時間の内容が見開き2頁でレイアウトされ、本文の両面に豊富な資料が配置され、簡潔にまとめ見やすく学習に集中できる工夫が見られる。</p> <p>○一単位時間の内容を「今日の学習課題」「考えてみよう」「本文・資料」「学習を活かして」という流れで授業が展開するような工夫が見られる。</p> <p>○章末に「学習のまとめ」として、「重要な語句」「学習の要点」が示されている。</p>
総括	<p>○各章のはじめに「この章で学習すること」を設け、課題と学習の流れが示されている。</p> <p>○生徒の興味・関心を高める「トピックス」を設け、各章末に学習のまとめとして、重要な語句と学習の要点がまとめられている。本の幅が広くワイドな構成になっている。</p> <p>○体育編、保健編ともに関連するページを示し、横断的な学習をするようになっている。</p>

# 研究調査報告書

教科名（保健体育）

項 目		保健体育（ 大修館 ・ 50 ）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<p>○心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践をするために、要点を明確化・細分化し、豊富な資料で深化・発展させる工夫が見られる。</p> <p>○生涯にわたって運動を親しむ資質や能力を育てるために、効果的な運動の行い方やスポーツによる文化交流について、コラムや事例など学習意欲を喚起する工夫が見られる。</p> <p>○健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てるために、学習した知識を活用し思考力を高める学習の場が工夫されている。</p>
特 色	内 容	<p>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</p> <p>○各項目の冒頭で、学習課題や動機づけとなる「クエスチョン」が開設され、各章末には「学習のまとめ」「振り返ってみよう」で振り返り学習ができる工夫が見られる。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</p> <p>○各項目に「トライ」「チャレンジ」を設け、話し合ったり、書き表したりすることで学びを深め、ディスカッションにより深く考えさせ実践化させようとする工夫が見られる。</p> <p>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</p> <p>○詳細な図解に加え「コラム」・「事例」では今日的課題を取り上げ、関心を高めさせ、随所に「URL」を記載し主体的な学習を促す工夫が見られる。</p> <p>＜生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する工夫＞</p> <p>○口絵にオリンピックやパラリンピックに関するページを設け、スポーツの多様性や自分がどのように運動に関わることができるかという可能性に気づかせる工夫が見られる。</p> <p>○運動やスポーツの中で、より良い人間関係を築くことの大切さが示され、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力育成する工夫がされている。</p> <p>＜健康の保持増進のための実践力を育成する工夫＞</p> <p>○今日的な話題を最新の写真やイラストで提示し、自分の課題としてとらえさせる工夫が見られる。また、「活用」「実習」において、実際の場面で役立つ資料が豊富である。</p>
	資 料	<p>○資料としての図解や写真が精細で、表に示されているデータも詳細なうえに、吹き出しでポイントを強調するなど、随所に生徒の理解を深めさせる工夫が見られる。</p> <p>○「コラム」や「事例」も新しいものであり身近な問題に迫り、学習指導要領の内容を超えた事項を「発展」として設け、学んだことをさらに深め発展させる工夫が見られる。</p> <p>○欄外に学習に関連したホームページを紹介している。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○本文が黄色の下地を敷き、周囲の豊富な資料との識別をさせる工夫が見られる。</p> <p>○「キーワード」として重要な語句をゴシック体で示したり、多彩なイラストやグラフ、写真などが最新で、学習内容に応じて使い分けたりするなどの工夫が見られる。</p> <p>○図表や資料などに吹き出しを加えてわかりやすく説明をしている。また、関連するページを「参照」として紹介している。</p>
総 括		<p>○各章のはじめに単元の目標につながっていくイメージ図を示し、学習の見通しをもてるようになっている。各ページに詳細な資料が豊富に掲載され、学習意欲の喚起とともに理解を助け、章末には学習したことが身につけているかを振り返るまとめがあり、発展的な学習で学んだことを生かし、深めることができるような構成になっている</p>

# 研究調査報告書

教科名（保健体育）

項 目		新 中学保健体育（ 学研 ・ 2 2 4 ）
教育基本法、学校教育法の下の中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<p>○心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践をするために、学習の流れや見通しをもつことで科学的に理解できる工夫が見られる。</p> <p>○生涯にわたって運動を親しむ資質や能力を育てるために、運動の意義や原理などを理解しやすくなり、小・中・高等学校と系統性を重視する工夫が見られる。</p> <p>○健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てるために、学習した知識を活用し、思考力・判断力が高まる工夫が見られる。</p>
特 色	内 容	<p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</p> <p>○各項目の冒頭で「学習の目標」や動機づけとなる「ウォームアップ」で内容を示している。章末では「章のまとめ」で学習の振り返りや確認ができる工夫が見られる。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <p>○「エクササイズ」や「活用しよう」の項目では、知識を生かして、思考力、判断力、表現力等の実践力となるような工夫が見られる。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む工夫&gt;</p> <p>○学習の流れに見通しをもちやすく、章末に「探究しようよ！」では、生徒の理解の程度に応じ学習を深められ、課題解決の方法を提示する工夫が見られる。</p> <p>○本文に関連した事柄を「コラム」や「情報サプリ」、「リンク」として設け、生徒が進んで学習に取り組む工夫が見られる。</p> <p>&lt;生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する工夫&gt;</p> <p>○今日的な話題を口絵や資料、「コラム」で中学生にとって、身近な事例を多く掲載し、多彩なイラストで自分の問題としてとらえやすい工夫が見られる。</p> <p>○運動やスポーツを行うことでルールやマナーを守ることや他者を尊重することの大切さについて示され、運動やスポーツに親しむ資質や能力を育成する工夫がされている。</p> <p>&lt;健康の保持増進のための実践力を育成する工夫&gt;</p> <p>○思春期の発育・発達やけがの防止や生活習慣病など、実生活に即して思考判断し、理解ができるようになっている。また、実習を通して実践力を育成する工夫が見られる。</p>
	資 料	<p>○教科書の冒頭で「学びのヒント」を示したり、「課題をつかむ」で学習目標をつかませたりするなど学習意欲を喚起させる工夫が見られる。</p> <p>○写真やイラストを効果的に使い、見やすく、学ぶ内容がわかりやすい資料を提示し、視覚的にも理解を助ける工夫が見られる。</p> <p>○最新で信頼性のある資料を本文の近くに配置し、見やすくするような工夫が見られる。</p>
	表記・表現	<p>○重要語句をゴシック体で示し、解説して、理解しやすくする工夫が見られる。</p> <p>○「課題をつかむ」「本文・資料」「活用」という構成で、学習の流れをつかみやすくする工夫が見られる。</p> <p>○「メモ」「調べる」等のわかりやすいマークを使用する工夫が見られる。</p> <p>○基礎的・基本的な知識の習得とその活用、探究に重点を置き、学習活動が段階的に深まるように單元ごとに構成を統一する工夫が見られる。</p>
総 括		<p>○一単位時間分を見開き2ページで構成され、学習の見通しが立てやすい。学習の流れも「課題をつかむ」「本文・資料」「活用」と一貫した構成であり授業の流れをつかみやすい。全体的には、基礎的・基本的な知識の習得とその活用・探究に重点を置き、思考力・判断力を育成する工夫が見られる。</p>

研究調査報告書

教科名（技術・家庭科（技術分野））

項目	新編 新しい技術・家庭 技術分野未来を創る Technology（東書・2）
教育基本法、学校教育法の下 の中学校学習 指導要領の教 科の目標との かかわり	<p>○基礎的・基本的な知識・技術を確実に習得させるために、学習の目的と他教科や道徳との関連を示し、座学と実習のバランスを考慮した構成になっている。</p> <p>○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、実践的な学習課題を示し、倫理観、職業観、勤労観が養われるように配慮し、課題解決に取り組めるようになっている。</p> <p>○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、環境や伝統・文化、日本（匠）の技術などを取りあげ、工夫し創造することの大切さを伝える学習課題や実習例が示されている。</p>
特 色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b> ○学習のまとめりごとに「目標」「始めの活動」「まとめの活動」を設けて、学習状況を確認しながら学べるようになっている。工具の使用手法や作業手順など基礎的な技能を「基礎技能のページ」としてまとめて掲載し、必要ときに振り返ることができるようにしている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b> ○実習例や実験例が示され、生徒が見通しを立てて問題解決的な学習を進められるようになっている。「ものづくりの手順」という欄を設け、学習の進め方や留意事項が説明されている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b> ○生徒が主体的に学習を進められるように「調べてみよう」「考えてみよう」という欄を設けている。また、学習を深めるため「技術のとびら」「発展」という欄を設けている。</p> <p><b>&lt;実践的・体験的な学習活動を行う工夫&gt;</b> ○実験や体験等の活動を通して、学習を進められるように「実験」「観察」などのマークを設けている。基礎から発展まで様々な実習例を難易度を示し紹介している。 ○実習中の安全な作業の方法や事故防止の注意事項について、「安全」「衛生」マークを示して留意事項に気付かせるようになっている。 ○技術に関わる倫理観への配慮の項目について、「情報モラル」「技術の天びん」マークで示している。</p> <p><b>&lt;技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する工夫&gt;</b> ○写真やイラストを使い、持続可能な社会のイメージや実現に向けての取組例などを示している。環境保全に関わる記述部分は、「環境」マークで示している。 ○各編に評価・活用の章とワークシート例を設け、技術を評価し活用するための学習活動に取り組むようになっている。評価・活用に関わる記述部分は、「技術の天びん」マークで示され、意欲を高められるようになっている。</p>
資 料	<p>○多様な指導計画に対応できるよう、写真や図、イラストなどの資料を掲載している。</p> <p>○様々なマークを用いて、学習を深めたり、関連を調べたり、振り返ったり、新たな課題を考えたりする際に参考として使えるようになっている。</p> <p>○各ページ下に「ひとくちQ&amp;A」を設け、興味を持って学習を深めたり、課題を考えたりできるようになっている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○各内容とも、共通の構成でできており、それぞれ爪見出しで各章の場所がわかり、その内容がわかるようになっている。</p> <p>○書体は、ユニバーサルデザインフォントで統一され、色覚の特性にかかわらず、見やすい紙面になっている。重要語句は太文字で表記されている。</p>
総 括	<p>○学習内容ごとに、「目標」から「まとめよう」までがひとまとめとして構成され、将来にわたって技術を評価し活用する能力が育まれるように配慮されている。</p> <p>○指導内容の最後に「学習を振り返ろう」「学習したことを確かめよう」「生活に生かそう」などを「学習のまとめ」として示している。</p> <p>○学習の流れを示し、生徒が見通しを立て、振り返る学習活動を重視している。</p> <p>○安全な作業に関わる内容が、作業場面に関連付けて示されている。</p>

研究調査報告書

教科名（技術・家庭科（技術分野））

項目		新技術・家庭 技術分野（教図・6）
教育基本法、学校教育法の下 の中学校学習 指導要領の教 科の目標との かかわり		<p>○基礎的・基本的な知識・技術を確実に習得させるために、生徒の興味・関心に応じた実習題材や実習例を数多く取り上げ、製作工程を丁寧にわかりやすく示し、学習活動がしやすい構成になっている。</p> <p>○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、実験や実習を多く掲載し、話し合ったり、考えたりしながら学習に取り組めるように配慮されている。</p> <p>○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、環境への配慮や伝統の尊重などの視点で技術を取り上げ、興味・関心を高める学習課題や実習例を紹介している。</p>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b> ○多くの実習題材を取り上げ、学習のまとめりに「学習の目標」「まとめ」「章末問題」を設けて実践的な活動を通して学べるようになっている。大きな写真や「基礎技能」マークを用いて、基本となる技術の習得や機器の安全な利用方法を学びながら学習を進められるようになっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b> ○実習例に手順が示され、生徒が見通しを立てて問題解決的な学習に取り組めるようになっている。また、問題点の例や改善例が示され、生徒が思考、判断しながら学習を進められるようになっている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b> ○生徒が主体的に学習を進められるように「調べよう」「やってみよう」という欄を設けている。また、そのヒントとなるような「コツ」マークを設けている。</p> <p><b>&lt;実践的・体験的な学習活動を行う工夫&gt;</b> ○実験や体験等の活動を通して、学習を進められるように「実験」「実習」「調べよう」「考えよう」「やってみよう」などのマークを設け、生徒が関心をもって取り組める実験や実習例を紹介している。</p> <p>○実習中の安全な作業の方法や事故防止のための注意事項について、「安全」「注意」マークを示して注意を促している。</p> <p>○技術に関わる倫理観について、配慮事項を示している。</p> <p><b>&lt;技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する工夫&gt;</b> ○写真やイラストを使い、持続可能な社会への取組、資源の再利用などが示されている。技術と環境に関わる内容が写真や図、データで示されている。</p> <p>○評価・活用に関わる記述部分は「調べよう」「考えよう」マークで示され、意欲を高めるようになっている。</p>
	資 料	<p>○多様な指導計画に対応できるよう、多くの写真や図、イラストなどの資料を掲載されている。</p> <p>○「発展」マークを用いて、それぞれの興味に合わせて取り組める発展的な内容を掲載し、生徒の興味・関心に対応できるようになっている。</p> <p>○「資料」欄を設け、興味を持って学習を深めることができるようになっている。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○内容ごとに色分けし、爪見出しで各章の場所が分かり、それぞれの内容に関する写真やイラストを配置して、学習の流れが分かるようになっている。</p> <p>○書体は、ユニバーサルデザインフォントで統一され、カラーバリアフリーの観点で配色されている。重要語句は太文字で表記されている。</p>
総 括		<p>○学習内容ごとに、実習題材を多く取り上げ、生徒が主体的に実践的・体験的な学習活動ができるようになっている。</p> <p>○指導内容の最後に「各学習内容の身に付けたい内容」や「章末問題」など「まとめ」として示されている。</p> <p>○学習の流れを示し、生徒が見通しを立て、振り返る学習活動を重視している。</p> <p>○安全な作業に関わる内容が、作業場面に関連付けて示されている。</p>

# 研究調査報告書

教科名（技術・家庭科（技術分野））

項目		技術・家庭（開隆堂・9）
教育基本法、学校教育法の下 の中学校学習 指導要領の教 科の目標との かかわり		<p>○基礎的・基本的な知識・技術を確実に習得させるために、学習の目標を明確に示し、学習を振り返る場面を設けて、生徒が主体的に学習に取り組めるような構成になっている。</p> <p>○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、具体的な課題を示し、実践的・体験的な学習活動や実践例を掲載し、生徒の実状に応じた学習活動ができるようになっている。</p> <p>○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、環境や伝統文化、日本の技術などを取り上げ、創造・工夫する力、他者や自然と共生する態度を養える学習課題になっている。</p>
特 色	内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○学習のまとめりごとに「学習の目標」「学習の振り返り」を設けて、学習の目標を明確にし、学習したことを振り返りながら学べるようになっている。実習の流れや手順などを写真やイラスト、マークを用いて掲載し、知識・技能を分かりやすく習得できるようになっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○実習例が示され、生徒が見通しを立てて問題解決的な学習を進められるようになっている。「豆知識」「探求」という欄を設け、思考力や判断力を養うことができる学習内容になっている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○生徒が主体的に学習を進められるように「調べてみよう」「考えてみよう」という欄を設けている。学習を深めるための「発展」という欄を設けている。</p> <p><b>&lt;実践的・体験的な学習活動を行う工夫&gt;</b></p> <p>○実験や体験等の活動を通して、学習を進められるように「実験」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」などのマークを設けている。基礎から発展まで様々な実習例を紹介している。</p> <p>○実習中の安全な作業の方法や事故防止の注意事項について、ガイダンスのページや「安全」マークを示して、留意事項に気付かせるようになっている。</p> <p>○技術に関わる倫理観への配慮の項目について、「安全」マークなどで示されている。</p> <p><b>&lt;技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○写真やイラストを使い、循環型社会や持続可能な社会の実現に向けての取組例などを示している。環境保全に関わる記述部分は「環境」マークで示されている。</p> <p>○各内容、巻末に評価・活用のページを設け、技術を評価し活用するための学習活動に取り組めるようになっている。評価・活用に関わる記述部分は、「環境」「探求」マークで示され、意欲的に高められるようになっている。</p>
	資 料	<p>○多様な指導計画に対応できるよう、写真や図、イラストなどの資料を掲載している。</p> <p>○様々なマークを用いて、学習を深めたり関連を調べる、振り返ったり新たな課題を考えたりする際に参考として使えるようになっている。</p> <p>○各ページ下の「豆知識」を用いて、興味を持って学習を深めたり、課題を考えたりできるようになっている。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○内容ごとに色分けし、上部の爪見出しでその場所がわかるようになっている。また、その内容に関する写真やイラストを配置して学習の流れや違いが分かるようになっている。</p> <p>○書体は、ユニバーサルデザインフォントで統一されている。重要語句は太文字で表記されている。</p>
総 括		<p>○学習内容ごとに、「学習の目標」から「振り返り」までがひとまとまりとして構成されている。</p> <p>○指導内容の最後に「学習をふり返ろう」「生活に生かそう」「探究活動」など「学習のまとめ」として示されている。</p> <p>○学習の流れを示し、生徒が見通しを立て、振り返る学習活動を重視している。</p> <p>○安全な作業に関わる内容が、作業場面に関連付けて示されている。</p>



研究調査報告書

技術・家庭科（家庭分野）

項目	新編 家庭分野 新しい技術・家庭 自立と共生を目指して （東書・2）
教育基本法、 学校教育法 の下、中学校学 習指導要領の 教科の目標と のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識・技術の習得を図るために学習の目標が明確になっており、学んだことが確認できるようになっている。</li> <li>○学んだ知識や技術を生活に生かすために、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されていて、実践のまとめと発表の仕方が丁寧にまとめられ、工夫されている。</li> <li>○衣食住などの伝統文化について、全部の編にわたって、「伝統・文化」のマークをつけ、学習する視点を示している。</li> </ul>
特 色 内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各編の初めに「学ぶこと」があり、その中の節ごとに「目標」が記載され、編末には「学習のまとめ」で振り返りや自己評価ができるようになっている。また、実習の時に確かめたい技能を「基礎技能」として示している。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭分野の学習と関わる独特な言い回しや名称を「言葉のページ」で解説している。</li> <li>○学習のまとめとしての「まとめよう」や「生活に生かそう」において、学習内容のまとめや自分の考えを表現することができるよう設定している。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節の始めには、「始めの活動」（考えてみよう、やってみよう、話し合ってみよう、調べてみよう）を設け、学習への関心・意欲を高め、課題意識を持って主体的に学習に取り組めるようにしている。</li> <li>○他のページや技術分野、他教科と関連させながら学習を深め広げることができるよう「リンク」「他教科」が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;実践的・体験的な学習活動を行う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各編にわたって実習例が豊富に載せてあり、連続写真などで手順がわかりやすくなっており、実践しやすいように工夫されている。特に調理実習では組み合わせて1食分の献立として考えられるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての学習後に「生活の課題と実践」のページを設けており、実践の流れを「1課題の発見 2計画 3実践 4振り返り、見直し 5改善 6次の課題」と共通した流れで示している。それぞれの実践例では、まとめ方や発表の仕方が明記され、実践においての見通しを持たせるようにしている。</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「手ばかり」、「目ばかり」を実物大の写真で取り上げたり、幼児の靴や箸を実物大で取り上げたりして、視覚から分からせるようになっている。</li> <li>○巻頭に「実習の安全」として写真やイラストでわかりやすく提示してある。また、このページにリンクマークで、関連ページが明記されていて、確認しやすい構成になっている。また防災や食物アレルギーに関する資料も掲載している。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1～4編が4色別になっていてツメ見出を設け、編で学ぶことを小学校の学習内容と関連させて表記している。</li> <li>○題材名や資料部分はゴシック体、内容文は明朝体、重要語句は太字を用いて表記している。</li> <li>○ページの右下にクイズを示し、次のページの左下に答えを掲載している。</li> </ul>
総 括	<p>最初にガイダンス。続いて、B「食生活」C「衣生活・住生活」A「家族」D「消費・環境」の順になっており、学習内容も導入、基礎、実習、発展的な学習へと流れている。また、「生活の課題と実践」は巻末に掲載されている。</p> <p>「自立と共生」を目指すという目標が全体に行き渡っており、自ら課題解決学習ができるように配慮されたつくりになっている。</p>

研究調査報告書

技術・家庭科（家庭分野）

項目	新技術・家庭 家庭分野（教 図・6）
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識・技術の習得を図るために、写真やイラストをたくさん掲載してわかりやすくするための工夫をしている。</li> <li>○学んだ知識や技術を生活に生かすために、内容ごとに「生活の課題と実践」を設定し、具体例を写真等を用いて示し個人やグループで実践できるようになっている。</li> <li>○衣食住などの伝統文化について年中行事、全国各地の郷土料理や和服を写真やイラストで示し取り上げている。</li> </ul>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各項目ごとにキーワードチェック欄があり、重要な語句の理解を確認できるようになっている。各内容の終わりには「学習のふり返し」があり、基本的な内容の定着を確かめることができる。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒に身につけさせたい表現力やコミュニケーション能力を高めるために、グループでの話し合いやロールプレイング、体験学習などの実習が盛り込んである。</li> <li>○「まとめよう」「考えよう」「話し合おう」等の学習活動を各所に設定している。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章や節の導入で「自立度チェック」や「クイズ」を取り入れ、生徒の視覚に訴えけるとともに、自分の課題に気付かせ、興味・関心を持って学習に取り組めるようにしている。</li> <li>○「調べよう」「やってみよう」を効果的に設け、生徒がより関心を持って学習する工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;実践的・体験的な学習活動を行う工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調理および被服の実習例を数多く掲載し、実習過程も写真やイラストで示しわかりやすくしている。さらに、調理の「ポイント」を赤い枠で示し、生徒が理解しやすくなっている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各内容の学習後に「生活の課題と実践」のページを設けており、見開きで紙面を構成している。「ステップ1課題を見つける 2計画を立てる 3実践する 4まとめる・発表する 5ふり返る 6次の実践へつなげる」の共通した流れで例示している。その流れの中に吹き出しを設け、取り組みやすいように工夫されている。</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品の切り方や幼児の手形など、わかりやすく実物大の写真に掲載している。</li> <li>○実習にかかわる安全については、「安全マーク」を付したり、本文を太字にしたりして、注意を促している。また、防災に関する資料も掲載している。</li> <li>○口絵の「年中行事とわたしたちの暮らし」や「全国各地のおもな郷土料理」など伝統文化についての資料を掲載している。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○爪見出しを各内容と章別に色分けするとともに、学習内容を短い言葉で示している。</li> <li>○題材名や資料部分は、ゴシック体、本文は明朝体、重要な語句は、太字で強調されている。</li> <li>○調理実習の材料を6つの基礎食品群に分類し、分類した食品群をサイコロの目で表している。</li> </ul>
総括	<p>最初にガイダンス。続いて、A「家族」B「食生活」C「衣生活・住生活」D「消費・環境」の順になっており、学習内容も導入、基礎、実習、発展的な学習へと流れている。また、「生活の課題と実践」は内容毎の最後に掲載されている「キーワードチェック」や「学習のふり返し」により自分で学習できるように構成されている。生徒が興味関心を持てるように、イラストを多く用いた内容となっている。</p>

研究調査報告書

技術・家庭科（家庭分野）

項目	技術・家庭 家庭分野（開隆堂・9）
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかり	<p>○基礎的・基本的な知識・技術の習得を図るために、「やってみよう」「話し合ってみよう」等で、あらかじめ考えさせたり、調べさせたりするようになっている。</p> <p>○学んだ知識や技術を生活に生かすために、巻末に「生活の課題と実践」としてまとめ、興味・関心に合わせて課題例が選択できるよう工夫されている。</p> <p>○衣食住などの伝統文化について、「伝統文化」のマークで示して、家庭や地域において、具体的に実践できる内容となっている。</p>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○「学習の目標」に対し、「ふり返り」または「学習のまとめ」で自己評価をすることで、基礎・基本の定着を図れるよう工夫されている。また、基本的な食材の切り方や縫い方を写真で示し、技能の定着を図れるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○「話し合ってみよう」「考えてみよう」という導入の部分やロールプレイングという手法を設けることによって、思いや考えを述べあう場面を設定し、内容を深める工夫がなされている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○「調べてみよう」「やってみよう」などのコーナーが題材の最初に数多く配置され自ら学習に取り組む導入として設定されている。</p> <p>○巻末の「生活の課題と実践」では、多くの課題例を設定している。また、他の内容や、技術、他教科等と関連するところにリンクマークを設けて主体的な学びが出来るように紹介されている。</p> <p><b>&lt;実践的・体験的な学習活動を行う工夫&gt;</b></p> <p>○興味をもって学習に取り組めるよう、活動例が具体的に示されている。衣服の実習例では、事例を数多く取り上げ、易しいものから難しいものへ、基本的な内容から応用へ無理なく学習が進められるよう配慮した配列に工夫がみられる。</p> <p><b>&lt;課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○全ての学習後に「生活の課題と実践」のページを設けており、実践の流れを「ステップ1 課題 2 計画 3 実践 4 結果 5 評価」と共通した流れで示している。「リンクマーク」を付して既習の内容を振り返らせるとともに、思考・判断・表現させるための手立てを具体的に明記している。</p>
資料	<p>○食材や幼児の手形などを実物大でわかりやすく示したり、中学生の実習場面を多く掲載したりしている。</p> <p>○実習にかかわる安全・衛生については、「安全」「衛生」マークにより、注意事項が記述されている。各題材で安全と関わることについて、具体的に示している。また防災や食物アレルギーに関する資料も掲載している。</p>
表記・表現	<p>○内容A B C Dを色分けし、爪見出しで分かりやすく示している。爪見出しには関連する内容の写真やマークなどを示している。</p> <p>○題材名や資料部分はゴシック体、内容文は明朝体で書かれ、重要語句は太字を用いて表記している。</p> <p>○各ページの下部分に豆知識を掲載している。</p>
総括	<p>最初にガイダンス。続いて、A「家族」B「食生活」C「衣生活・住生活」D「消費・環境」の順になっており、学習内容も導入、基礎、実習、発展的な学習へと流れている。また、「生活の課題と実践」は巻末に掲載されている。</p> <p>生活の自立と共生という視点で各内容が構成されており、自立をめざすことを大きな目標に掲げて学習を進めていくということが打ち出されている。</p>

研究調査報告書

教科名 ( 英語 )

項目	NEW HORIZON (東書・2)
教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導 要領の教 科の目標 とのかか わり	<p>○Unit (課) の各 Part は、左ページに「本文」「新出語句」「聞く」、右ページに「基本文 (補助説明あり)」「基本練習」「話す・読む・書く活動」で構成されており、4技能を総合的に育成する活動が設定されている。</p> <p>○1・2学年には小学校で学んだ内容が掲載されており、円滑な接続ができるよう工夫されている。また、各学年の最初のページには、学年及び3年間の学習内容と到達目標が明記され、見通しを持って学習することができるようになっている。</p> <p>○学年ごとに「国際理解」「環境」「人権」「福祉」「自然科学」「伝統文化」など、発達の段階を考慮した題材を取り上げ、さらにリスニングとしてニュースや天気予報等を取り上げ、海外の生きた文化に触れる機会を設けている。</p>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○各セクションに「基本練習」「Listen」「Speak」「Write」の言語活動があり、他に辞書の使い方や発音記号などを学ぶ「学び方コーナー」や、文法事項確認のためのリスニング活動「Listening Activity」も用意され、基礎の定着と確認ができる構成になっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各学年に3回ある Presentation では、スモールステップを踏みながら、既習事項を使って3文以上で1日の生活を発表するなど、町紹介や将来の夢等のテーマ別の自己表現活動が設定されており、思考力・判断力・表現力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○各課の最初には、その課の学習目標が示されている。学年に数回「学び方コーナー」があり、英語の音の変化、辞書の使い方、文の構造などが示されている。同様に「まとめと練習」があり、自主的に文法事項を復習できるよう設定されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○Daily Scene (場面別コミュニケーション)、Presentation (テーマ自己表現活動)、Let's Read (長めの読み物)、Listening Activity (文法事項確認リスニング) 等を通して、コミュニケーション能力を育成する工夫がされている。</p>
資料	<p>○巻末にはBonus Word Boxがあり、各学年の表現活動で使用する単語が挿絵と共に紹介されている。</p> <p>○各学年の学習段階に合わせ、1年には「手紙の書き方」、2年には「不規則動詞変化表」、3年には「1～3年基本文一覧」「Further Reading」等が用意されている。</p>
表記・表現	<p>○1学年ではブロック体、2・3年生では活字体を使用している。新出単語は1学年ではアクセント記号が、2・3学年では発音記号が併記されている。</p> <p>○1学年5課以降文字が小さくなり、行間も狭くなる。2学年以降さらに文字が小さくなり、3学年の名作鑑賞では行間も一層狭くなり、情報量が増えている。</p>
総括	<p>○変型A4判。</p> <p>○Unit (課)、Daily Scene (場面におけるコミュニケーション活動)、Presentation (自己表現活動) の3部構成となっている。</p> <p>○各学年の最初にUnit 0があり、前年度の復習から学べるようになっている。</p>

研究調査報告書

教科名 ( 英語 )

項目	SUNSHINE ENGLISH COURSE (開隆堂・9)
教育基本法、学校教育法の下での中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○ Program (課) の各セクションは、左ページに「基本文 (説明あり)」「新出語句①」「聞く・話す活動」「聞く・話すを活用した活動」「ワード・ボックス」、右ページに「本文」「新出語句②」「QA」「書く活動」で構成されるとともに、通常課以外にも4技能ごとの Power Up セクションが用意されており、4技能を段階的・総合的に育成する活動が設定されている。</p> <p>○ 3年間を見通した CAN-DO LIST があり、定期的に自分の成長と到達目標を確認しながら学習を進めることで、学習への意欲を高めることができるよう工夫されている。</p> <p>○ 日本の伝統文化に関する題材や英米圏に偏ることなく広く世界各地の題材を取り上げるとともに、「環境」「平和」「人権」「自然科学」など、現代社会の事象や課題についても扱い、生徒に理解と課題意識をもたせる工夫をしている。</p>
特色	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○各セクションの「基本文」は対話形式となっており、実用的である。また、「Listen」「Speak」「Try」の言語活動や、新出文法事項の練習問題などが設定されている。本文は右側に掲載されており、基本事項を十分に学んだ上で本文をじっくり学習できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各学年に3回ある My Project では、スピーチやスキット、インタビューなどの自己表現活動が設定されており、3年間を見通した到達目標をもとに思考力・判断力・表現力の育成を図る工夫がされている</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○各セクション最初には、学習目標が示されている。巻末にある「Can-Do List」は3年間を見通した自己評価を、また「英語のしくみ」では練習問題を通じて文法事項を確認することができるよう工夫されている。My Project では学び合う「協働学習」が設定されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各課の終わりに Power-Up が用意されており、コミュニケーション活動を通して、4つの技能をさらに伸ばせるようになっている。また、各セクションにある Try は耳と口で覚えた表現を使って友達とコミュニケーションを図る能力が育成されるよう工夫されている。</p> <p><b>資料</b></p> <p>○全学年に、「Basic Dialogのまとめ」「英語のつづり字と発音」「単語と熟語」等が収録されている。2・3学年では基礎・基本の受け答えを練習するクイック Q&amp;Aがある。</p> <p>○1学年の巻末に切り離し可能なアクションカードがあり、様々なコミュニケーション活動で活用できるよう工夫されている。</p> <p><b>表記・表現</b></p> <p>○1学年の前半ではブロック体、9課から活字体が用いられている。1学年では各新出単語にアクセント記号が付記され、2・3年では発音記号が茶色で併記されている。</p> <p>○1学年5課以降やや文字が小さくなり、2学年以降さらに小さくなり行間も狭くなることにより情報量が増えている。</p>
総括	<p>○変型 A4判。 ○左ページに言語活動、右ページに本文が掲載されている。</p> <p>○PROGRAM (課)、POWER-UP (コミュニケーション活動)、My Project (自己表現活動) の3部構成となっている。 ○CAN-DO LIST があり、生徒が3年間の見通しを持って主体的に学習できるよう工夫されている。 ○基本文が対話形式で示され、実用的である。</p>

研究調査報告書

教科名（英語）

項目	TOTAL ENGLISH（学校図書・11）
<p>教育基本法、学校教育法の下 の中学校 学習指導要領の教科の目標 とのかわり</p>	<p>○Lesson（課）の各セクションは、左ページに「本文」「新出語句」「コミュニケーションで活用できる情報」、右ページに「基本文」「聞く・話す・書く活動」「英語のリズム等」で構成され、また各Chapter（章）の終わりにはそれらを総合的に用いたChapter Projectが用意されており、4技能をスモールステップかつ総合的に育成する活動が設定されている。</p> <p>○1学年のLesson 1は一般動詞でスタートし、Lesson 3でbe動詞を導入する構成となっており、小学校外国語活動との円滑な接続が図れるよう工夫している。</p> <p>○題材のテーマを「人」「ことば」「地球」とし、「生徒にとって身近な話題」「日本・世界の多様な文化」「自然科学」「環境問題」等、様々な題材を扱い、国際性や多様性について理解を深め、生徒自身に考えさせるよう工夫されている。</p>
<p>特色</p>	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○各学年に、前年度の復習をする「Pre-Lesson」がある。各セクションには「基本文」「Listen」「Speak」「Write」の言語活動が用意され、また各課の終わりにあるReviewで復習することにより、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○4つのChapter（章）の終わりに設定されているProjectにおいて、ステップを踏みながら既習事項を用いて「Listening」「Writing」「Speaking」の面からスピーチや討論などの自己表現活動を行い、思考力・判断力・表現力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○Chapter（章）ごとに、学習目標が示されている。Chapter（章）末のCheck It Outで文法事項を体系的に振り返ることができるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各セクションの基礎的な言語活動と、Talking Time、Chapter Projectなど応用的な言語活動によって、実践的な運用能力を養うよう工夫されている。また、Tipsというコーナーで“Let's see.”などコミュニケーションに必要な表現を学べるようになっている。</p>
<p>資料</p>	<p>○巻末のMore Wordsに種類別の語彙集があり、表現活動の際に使う語彙がイラスト付きでわかりやすくまとめられている。</p> <p>○巻末にある「基本単語のまとめ」「目標文の一覧」で、基礎基本を繰り返し学習することができるよう工夫されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○1学年ではブロック体が、2学年以降活字体が用いられている。単語には、1学年はアクセントの記号、2、3学年は発音記号が併記されている。綴りと発音の関係を学ぶ記述がある。</p> <p>○1学年3課以降文字が小さくなり、5課以降さらに小さくなる。2学年以降は行間も狭くなり、情報量が増えている。</p>
<p>総括</p>	<p>○B5判。○各学年ともChapter（章）、Lesson（課）、Review（復習）、Project（自己表現）から構成されている。</p> <p>○1学年はPre-lessonで小学校の復習をし、Lesson 1は一般動詞から学習が始まるなど、小学校外国語活動との接続を考慮している。</p>

研究調査報告書

教科名 ( 英語 )

項目	NEW CROWN (三省堂・15)
教育基本 法、学校教 育法の下 の中学校 学習指導 要領の教 科の目標 とのわか わり	○Lesson (課) は GET (2セクション) と USE (1～2セクション) から成り立っている。 GET (基礎) は左ページに「本文」「新出語句」「基本文」「ドリル」、右ページに「聞く・話す・書く活動」「Word Bank」から構成され、USE (活用) は「読む・話す・書く活動」の多様な言語活動が掲載されており、4技能をバランス良く学べるように設定されている。 ○GETで学んだ基礎的・基本的な知識・技能をもとに、USEで繰り返し活用することで積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を段階的に育成するよう工夫されている。 ○「学び」「ことば」「伝統文化」「異文化」「自然理解」「社会理解」「人間理解」の7領域の話題を通して言語や文化に対する理解を深め、他を受け入れ尊重する心と態度を育成するよう工夫されている。
特 色 内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> ○各 GETには、「POINT」「Drill (基本的な練習)」「Practice (Listen, Speak, Write)」が用意され、Lessonの終わりには「文法のまとめ」がある。また、本文は短く音読しやすくなっており、内容理解とともに新出文法や語句の習得を図る工夫がされている。 <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> ○各学年に Projectが3回用意され、レッスンで学んだことを生かして、マッピング手法や協働学習などを取り入れながら、「友達へのインタビュー」「大切なものを紹介」などの自己表現活動が設定されており、思考力・判断力・表現力の育成を図るよう工夫されている。 <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> ○各課の最初には、その課の学習目標が示されている。各課の後ろ「文法のまとめ」で文法事項を体系的に振り返ることができるよう工夫されている。また、各学年2回ある「For Self-study」のコーナーでは、辞書が自主的に引くことができるよう工夫されている。 <p><b>&lt;聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫&gt;</b></p> ○各課にあるUSEで、基礎的な力を活用して4技能を用いた活動を行うとともに、各課の終わりにあるLet's Listen、Let's Talk、Let's Readで各技能を生かした活動を通してコミュニケーション能力を育成する工夫がされている。
資 料	○巻末には「絵でわかる英語のしくみ」があり、文法事項を視覚的にわかりやすく説明している。また、発音の仕方を発音記号と絵を用いてわかりやすく説明している。 ○Further Readingとして長文の読み物が掲載されており、「読む」力の育成に配慮していることがわかる。
表 記 ・ 表 現	○3年間を通してブロック体を使用し、部分的に手書き書体や活字体が使われている。新出単語は1学年ではアクセント記号、2、3学年では発音記号が紫色で併記されている。 ○3年間を通じて文字の大きさ・行間は同じであり、必要事項を記入するのに十分な行間がとられている。ただし、Let's Readは小さい文字で書かれ、情報量が増えている。
総 括	○変形A判。 ○本文は3年間ブロック体で、行間も広いままである。 ○Lesson (課) は、「GET (基礎・基本)」「USE (基礎的な力を活用して読む・話す・書く活動)」「まとめ」から成り立ち、Project (自己表現) も用意されている。 ○1学年の最初には、小学校外国語活動をふり返るGet Readyがあり、接続を考慮している。

研究調査報告書

教科名（英語）

項目	ONE WORLD（教出・17）
教育基本 法、学校 教育法の 下の中学 校学習指 導要領の 教科の目 標とのか かわり	<p>○Lesson（課）はHop（2セクション）とStep（2セクション）から成り立っている。Hopは左ページに「本文」「新出語句」「基本文（説明あり）」、右ページに「聞く・話す・書く活動」「活動用の単語」から構成されており、Stepは本文が両ページに渡っている。また、別冊Essentialsがあり、学習した内容を活用して「聞く・話す・書く」の言語活動が掲載されており、本冊の学習をさらに深めながら4技能を総合的に育成するよう工夫されている。</p> <p>○各Lessonを振り返る活動（task）と、学習した様々な表現を使った発展的な活動（Project）があり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するよう工夫している。</p> <p>○「国際理解」「環境」「風俗習慣・地理歴史」「福祉」「自然科学」「伝統と文化」など様々な題材を取り上げ、身の回りのことから未来のことへと話題が広がるよう工夫されている。</p>
特 色 内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○「聞く」「話す」「書く」を中心としたHopと、「読む」を中心としたStepで構成され、各セクションに「Listen」「Speak」「Write」の言語活動が用意され、基礎の定着と確認ができるよう工夫されている</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各学年に3回あるProjectでは、既習事項を活用して4技能の面から「将来の夢」「卒業スピーチ」などの自己表現活動が設定されており、思考力・判断力・表現力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○各セクションには、学習目標が示されている。「辞書についていっしょに学ぼう！」では、各学年の学習段階に合った辞書の使い方を詳しく説明している。また、別冊の『Essentials』を用いて、学習した語句、連語、文法事項について自主学習できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各課の終わりにはJUMPがあり、4技能のコミュニケーション能力を育成する工夫がなされている。また、4技能のTipsが数回設けられており、相づちの打ち方などが学習できるようになっている。</p>
資 料	<p>○巻末には、オプションの読み物や歌、重要構文復習リスト、自己チェックリストなどが用意されている。また課の間に「Time for Words」として場面別の語彙が挿絵と共に載っている。</p> <p>○別冊のEssentialsで、教科書で学習した語句・文法事項などを様々な活動を通して活用できるようになっている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○1学年の6課までブロック体、それ以降は活字体が使用されている。新出単語は1学年ではアクセント記号が、2・3学年では発音記号が併記されている。</p> <p>○1学年8課以降文字が小さくなり、2学年以降はより小さくなる。対話文では、話し手が替わる部分の行間がやや広く取られている。学年が上がるにつれて行間が狭くなる。</p>
総 括	<p>○B5判。</p> <p>○Lesson（課）は、「Hop（「聞く」「話す」「書く」活動を中心に）」「Step（「読む活動を中心に）」「Jump（振り返り）」から成り立ち、Project（表現活動）も用意されている。</p> <p>○教科書で学習した語句・文法事項等を自主的に学習できる別冊「Essentials」がある。</p>



研究調査報告書

教科名（英語）

項目	COLUMBUS 2 1 （光村・38）
教育基本法、学校教育法の下 の中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○Unitの各セクションは、左ページに「本文」「新出語句」「コミュニケーション表現」「強弱や区切り」、右ページに「基本文」「聞く（ドリル）・話す・書く活動」で構成されており、4技能を総合的に育成する活動が設定されている。</p> <p>○活用をねらいとした You Can Do It!、自己表現をねらいとした Go For It!等を設けるとともに、買い物や道案内などを行う Skit Timeなどを設定し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫がされている。</p> <p>○中学校生活を舞台とした一貫したストーリーで、物語の展開を期待しながら学習を進めることができる。また、様々な国の文化や、環境、歴史、科学、偉人など多様な題材を取り上げた読み物資料により、多様なものの見方・考え方に触れることができるよう工夫されている。</p>
特色 内容 資料 表記・表現	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○各セクションに「基本文」「Listen」「Speak」「Write」の言語活動があり、基礎・基本の定着を図ることができる。また、各学年7回程掲載されている Language Focus では学習した文法事項を整理し、確認できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各学年に3回ある Go for it! では、既習事項を使って友達紹介や町紹介などテーマ別の自己表現活動が設定されている。また、各学年1回ある「英語で学び、考えよう（CLIL）」では、「食品と栄養素」など他教科の学習内容と重ねて学ぶことができるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○各課の最初には、その課の学習目標が示されている。Your Coach では、「辞書を使おう」「英語の音読を楽しもう」など、主体的に学習に取り組む工夫がされている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各課の最後に You Can Do It!があり、実際によくある場面で学習した英語を使うことができるかを確認できる。また、章の終わりには Go For It!、Let's Readを設けており、コミュニケーション活動を通して学習したことを定着させる工夫がされている。</p> <p>○言語活動で使用頻度の高い Word Square が教科書の中ほどにまとまって配置され、表とイラストを用いて生徒が使いやすい構成になっている。</p> <p>○Unit, Task, 資料など、それぞれのページの端が色分けされている。また、図や写真、漫画形式のイラストなどによって場面や内容を理解しやすいようになっている。</p> <p>○1学年ではブロック体を使用され、2学年以降ブロック体を使用されている。新出単語は1学年はアクセント記号が、2学年以降は発音記号が紫色で付記されている。</p> <p>○2学年以降、文字が小さくなり行間も狭くなって、情報量が増えている。3学年巻末読み物資料はさらに行間が狭くなっている。</p>
総括	<p>○変型 A4 判。</p> <p>○Unit（課）、You Can Do It!（振り返り）、Go for It!（自己表現）から構成されている。</p> <p>○本文は、登場人物の3年間を追った一貫したストーリーとなっている。</p> <p>○「日本の歴史」等、他教科と言語を合わせて学ぶ学習方法（CLIL）が掲載されている。</p>